

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

**推進委員会当日 持参してください**

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり
- 施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実
- 今後の取組 (1) 相談窓口・相談体制の充実
- ① 行政
- ▶ 総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指します。
  - ▶ 公設公民館を活用した、相談窓口の設置を検討します。
  - ▶ 相談体制を総合的に検討・調整する会議の設置を検討します。
  - ▶ わかりやすい相談窓口の設置と、周知に努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆新庁舎建設後における相談窓口の場所 ◆総合窓口の設置を含めた組織機構の見直し	◆新庁舎建設の検討を重ねる中で相談窓口の場所の検討を行った。	◆新庁舎建設後は、新庁舎（本庁舎）、西那須野庁舎、塩原庁舎、ハロープラザ、黒磯駅前図書館で相談等の業務を担う方向性を「新庁舎建設基本計画」で示した。	◆組織機構の見直しに併せ、総合窓口の設置を含めた検討を行う。	B	◆総合窓口の設置に向けた方向性を示すことができたため。	縮減
総務部	◆窓口サービス向上委員会（連絡会、ワーキンググループ）の開催	◆H30.10.17開催	◆新庁舎建設の関係もあり、窓口サービス向上に係る行動計画の期間終了前ではあったが、1年前倒しでアンケート調査を行い、実施済みの取組に対する来庁者の声を聞くことができた（サービスに対する市民ニーズの現状や傾向が把握ができた。） ◆新庁舎の建設まで及び建設後の相談体制・相談窓口の在り方を含む行政サービス全体をどの様に管理していくかが課題である。	◆現状のサービスの更なる向上策の検討 ◆現状において取組可能な新サービスの検討 ◆新庁舎建設後へのサービスへの継承	B	◆会議を通じて本庁及び各支所間のサービスに対する意識の共有を図ることができた。	改善

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公設公民館を利用した、相談窓口を設置し、周知する。</li> <li>◆わかりやすい相談窓口を設置し、周知する。</li> <li>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターにより、高齢者の多様な相談に応じ、相談内容により、関係機関と連携する。</li> <li>◆総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前年に引き続き、市広報誌に相談日等を定期的に掲載した。</li> <li>◆高齢者の総合相談窓口として市内8か所の地域包括支援センターについて、リーフレット等により周知した。</li> <li>◆市広報誌に相談日等を定期的に掲載した。</li> <li>◆相談の内容に応じた相談窓口の設置。</li> <li>◆公設公民館に相談会場を設置し、周知した。</li> <li>◆集団検診会場に相談日を掲示した。</li> <li>◆集団検診受診者には、個別の相談日を通知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合的な相談窓口の検討について、新庁舎建設に伴う組織の見直し後でないと、見直しの着手できない。</li> <li>◆高齢者の総合相談窓口として、高齢者の生活全般の悩み、相談に対して支援することができた。</li> <li>◆相談内容に応じた窓口を設置していることにより、きめ細かな対応ができた。</li> <li>◆健診の結果や健康相談等に対応できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新庁舎建設のスケジュールと並行して、本市に適した総合的な相談窓口を検討していく。</li> <li>◆地域包括支援センターの周知を継続する。</li> <li>◆各種相談に応じた窓口を設置していることの周知を引き続き行い、住民が必要時に活用できる体制整備を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合的な相談窓口の設置の検討について、今後も継続していく必要があるため。</li> <li>◆地域包括支援センターによる相談支援が行われているため。</li> <li>◆各種相談の周知はされており、対応はできているが、引き続き、周知や体制整備は必要なため。</li> </ul>	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆わかりやすい相談窓口の設置と周知。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家庭相談員や婦人相談員等を置き、様々な相談に対応できるようにした。</li> <li>◆市広報等に掲載し、相談窓口の周知をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆担当相談員を置くことで、相談内容に応じた相談窓口の円滑な紹介が可能になった。</li> <li>◆総合的な窓口の設置には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合的な相談窓口のあり方について検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合的な窓口の設置には至っていないものの、周知方法や資料の活用等の効果がみられるため。</li> </ul>	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆相談窓口の設置相談を受け、会場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社会福祉協議会が行う地域住民助け合い事業の地区拠点として、公民館事務室を提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公民館としての主体的な活動ではないため、自主事業、貸館事業との調整が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業実施に際し、関係課との綿密な連絡調整が必要</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆主体的な活動は未実施</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどを通して市民に各種相談窓口の情報を周知します。
- ▶ 行政、専門機関、地域住民などと連携を図り、相談支援のネットワークを強化します。
- ▶ 窓口に必要な資格を持った職員を配置し、また、研修などを通して職員一人ひとりのスキルアップを図り、質の高い相談支援体制づくりに努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政、専門機関、地域住民などとのネットワークを強化する。</li> <li>◆地域からの相談に対し、適切な対応が出来るようスキルアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域からの相談に対し、行政、専門機関、地域住民と連携し対応</li> <li>◆各種研修会に参加してのスキルアップ、地域支援会議などで地域包括とのネットワークの強化が図れた。</li> <li>◆自治会やサロン等に出向き、情報の収集などを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政、専門機関、地域住民と連携することにより、相談内容に応じた専門機関へつなぐことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域支援員、地域支援員推進員の知識・情報の共有を図り、質の高い相談体制をつくる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ネットワークづくり・スキルアップを強化できた。</li> </ul>	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。</li> <li>◆リアルタイムを意識し、定期的にHPの更新を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりやHPを利用し、各種相談窓口の情報を周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりやHPを利用し、各種相談窓口の情報を周知することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆HPについては、リアルタイムを意識し最新の情報を載せていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協でキャッチした情報は周知することができた。</li> </ul>	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆広報誌やパンフレットを通して、制度の周知を行う。</li> <li>◆関係機関との連絡を密に行う。</li> <li>◆国・県が主催する研修会に参加し、職員のスキルアップと情報収集を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆フードバンクに協力してくれる事業所、住民が増加している。</li> <li>◆広報誌で相談窓口の周知に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆それぞれの関係機関との連携で相談支援ができた。包括的な相談支援のネットワークづくりが課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SNSの活用で幅広い年齢層に相談窓口の周知に努める必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆相談窓口の周知とともに包括的な相談支援のネットワークづくりが必要</li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
福祉サービス 支援係	◆居宅介護支援及び特定 相談支援に関わる職員の 配置により、関係機関を 中心として地域に向けて ネットワークを形成す る。	◆地域ケア会議への参 加、事例提供を行うこと ができ、その中で、関係 機関等との関係を築くこ とができた。	◆関係機関との相談支援 の連携を通じて、地域ケ ア会議での事例発表など 行うことができた。	◆引き続き、それぞれ職 員のスキルアップを図 り、質の高い相談体制を 作る。	B	◆相談支援のネットワ ーク化が少しずつできてき たため。	継続
ボランティア センター	◆コーディネート機能の 強化として社協本所に新 にボランティアセンター を開設し、黒磯地区、西 那須野地区（塩原地区含 む）でコーディネートを行 う。	◆10月にボランティア センター本所を開設し、 ボランティアセンター黒 磯とともに『地域に関か れた存在』として活動を 開始。 ◆ボランティアセンター の専任職員が3名体制と なる（本所2名、黒磯1 名） ◆専任職員3人が全員が コーディネートの資格を 所有しコーディネート業 務を行った。	◆VCが2ヶ所になり、 専任職員も3名体制（本 所2名、黒磯1名）とな り、多くの市民やボラン ティアの窓口となってき ている。	◆まだ、相談等の件数が VC黒磯に偏っているの で、VC本所のPRを行 いより多くの市民やボラ ンティアセンターの相談 窓口としていく。	B	◆VC本所が開設されV C黒磯とともに多くの市 民やボランティアの窓口 となってきている。	拡充

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で困っている人がいたときには、各種相談窓口にご相談するよう勧めます。
- ▶ 市や社協の広報紙やホームページなどで相談窓口を確認します。
- ▶ 地域包括支援センターなどの専門機関や民生委員・児童委員の業務を理解し、連絡先を地域で共有します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	◆市、社協広報紙及びホームページにより相談窓口を確認 ◆市、地域包括支援センターなどと連携し、地域の中で困っている人への支援として、相談窓口の情報提供を行っている。
総務・経理係	◆相談窓口を知るために、社協だよりや社協HPから情報を得ている。
生活支援係	◆民生委員に地域の困っている人を情報提供した。

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実  
 今後の取組 (2) 福祉に関する情報提供の充実  
 ① 行政  
 ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行います。  
 ▶ 個人情報の保護に配慮しつつ、地域と連携する仕組みを検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行う。 ◆災害発生時に備え、個人情報の保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。 ◆地域住民助け合い事業（14公民館） ◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）	◆避難行動要支援者に対して個人情報提供に係る同意確認を行った。 ◆避難支援等関係者に対する同意者名簿の提供について、個人情報の取扱いに関する協定を締結した上で、自治会に対して同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。 ◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。 ◆見守り活動等を71自治会が実施した。	◆避難行動要支援者制度について、市と協定した自治会78%となり、また個別計画の作成率が56.7%となった。 ◆見守り活動等取組自治会が増加しているが、取り組みをしていない自治会がある。	◆避難行動要支援者制度について、未協定自治会に対して粘り強く制度の趣旨を周知していき、協定数を増やしていく。 ◆自治会に直接出向き、見守り活動等の取り組みを働きかけ続ける。	A	◆避難行動要支援者制度について、個別計画の作成数や協定自治会数が増えた。 ◆計画どおりに推進員を配置し、見守り自治会が増加しているため。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆NPO法人と連携し、子育てに関する情報を提供する。	◆親子つどいの広場をNPO法人に委託し、連携しながら情報の提供や共有ができた。 ◆子育てサロンの開催場所や時間を掲載したサロンマップを作成し、乳幼児健診等での配布、保健センターや庁舎窓口設置をした。 ◆子育てコンシェルジュが子育てサロンや乳幼児健診会場を訪問し、情報提供を行った。	◆子育てサロンマップに掲載し、開催場所や時間の周知はできた。子育て世代はHPから情報を得ることが多いので、掲載内容、検索しやすい方法の検討が必要。	◆HPでの掲載方法の見直しを検討する。	B	◆子育てコンシェルジュが子育てサロンや乳幼児健診での周知活動を実施したことにより、情報提供の充実が図られたため。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどの内容の充実に努め、また、福祉協力店などを活用し、地域住民へ福祉サービスなどの情報を提供します。
- ▶ 地域ごとの広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民へ福祉情報の提供	◆福祉協力店の情報をホームページに掲載 ◆地域福祉活動補助金制度で自治会の広報誌発行支援 ◆自治会における見守り活動の状況及びサロンなどの様子を推進員が壁新聞にして配布した。 ◆併せてHPへの掲載などで市民に情報の提供をした。	◆地域住民へ福祉情報の提供・支援ができた。	◆地域で実施している福祉活動の周知	B	◆ホームページの内容を充実させた。	継続
総務・経理係	◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。 ◆リアルタイムを意識し、定期的にHPの更新を行う。	◆社協だよりについては、新たに3つのコーナーを連載として企画した。 ◆HPについては、地域壁新聞コーナー及び福祉協力店の専用サイトを新たに設けた。	◆社協だより及びHPで新しいコーナーを増設したことで、より多くの情報を発信することができた。	◆社協だより及びHPで新しいコーナーを増設したが、内容の充実に努めていく。	B	◆新たな情報発信コーナーを設けることができた。	継続



## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域ごとで広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりを検討します。
- ▶ 回覧板や広報紙などをみる習慣を身につけます。
- ▶ 地域の中で福祉に関する情報を共有するように努めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会での広報誌発行</li> <li>◆公民館等で福祉に関する情報の掲示</li> <li>◆生きがいサロン等への参加を促すため、声かけをした。</li> <li>◆生きがいサロン等で、福祉に関する情報（チラシ等）を配布、周知した。</li> <li>◆回覧板や広報等で不明だった点について、社協の地域支え合い推進員に問い合わせをし、情報を得た。</li> </ul>
総務・経理係	◆各戸配布されている社協だよりから福祉の情報を得ている。

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実  
 今後の取組 (1) 地域における福祉活動を通じたニーズキャッチ  
 ① 行政

- ▶ 地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。
- ▶ 積極的に地域へ出向いて、ニーズをキャッチする仕組みを検討します（アウトリーチ）。
- ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズのキャッチに努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進する。 ◆積極的に地域へ出向いて、ニーズをキャッチする。 ◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズをキャッチする。 ◆地域住民助け合い事業（14公民館） ◆地域支え合い推進員の配置（14公民館） ◆地域包括支援センターによる実態把握 ◆地域ケア会議の開催	◆避難行動要支援者支援制度について、自治会や民生委員に対して制度の説明を行った。 ◆地域自立支援協議会の各専門部会において福祉従事者や当事者から地域課題の抽出を行っている。 ◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。 ◆見守り活動等を71自治会が実施した。 ◆地域包括支援センターが各圏域における地域ケア会議等を実施した。	◆避難行動要支援者制度について、一般市民に対しても制度の理解が進みつつある。 ◆福祉従事者に加え当事者からも直接ニーズを把握することができた。 ◆地域支え合い推進員を公民館に配置することにより、自治会の活動からの地域のニーズを把握しやすい体制となった。	◆避難行動要支援者制度について、引き続き自治会、民生委員及び一般市民に周知していく。 ◆把握したニーズを施策に反映する仕組みや、関係課が横断的に情報共有する仕組みを検討する。 ◆地域課題について話し合う場（協議体）を設置する。	B	◆避難行動要支援者制度について、まだ全ての市民等が理解していないため。 ◆地域や当事者から直接的にニーズを把握する仕組みとはなっていないが、間接的な把握ができているため。 ◆見守り活動に取り組む自治会が増えているが、地域住民が自ら地域課題について話し合う場がなく、ニーズ把握するまでに至ってほしいため。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域における子どもの見守り活動やNPO法人等と連携し、ニーズのキャッチに努める。</li> <li>◆福祉関連NPO法人と連携し、ニーズのキャッチに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の会議等への出席や、NPO法人と情報共有をして、現状の把握に努めた。</li> <li>◆ファミリーサポートセンターの運営と公設放課後児童クラブの運営を委託しているそれぞれのNPO法人と連携し、利用者からの生の声を聴き、ニーズの把握に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の会議等に参加することで、地域の現状の把握を心がけた。</li> <li>◆事業受託NPO法人との意見交換を行い、利用者の声や要望を聴く機会を設けた。</li> <li>◆H29から公設クラブを一括委託とした放課後児童クラブにおいては、利用者の声が市へ届きにくくなった現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ニーズをキャッチする仕組みを検討していく。</li> <li>◆NPO法人との定期的な意見交換を継続する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員やNPO法人との連携が図れるようになってきた。</li> <li>◆委託事業者と連携し、ニーズの把握に努め、良い連携が図れているため。</li> </ul>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 職員が積極的に地域に出向き、支援が必要な人の情報をキャッチするよう努めます（アウトリーチ）。
- ▶ 社協が行う高齢者、障害者、生活困窮者などに対する事業を展開する中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 各種福祉団体との連携の中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守り活動を通じて生活の中で異変に気づいた際に専門機関などに連絡するような体制づくりを支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業の実施</li> <li>◆配食サービス事業の実施</li> <li>◆心身障害児者父母の会との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会の見守り活動を支援し、見守り対象者の情報を共有</li> <li>◆配食サービス事業の配達ボランティアと連携し利用者の情報を共有</li> <li>◆支援員、推進員及び地域包括が連携を図りながら地域の情報を収集し、居場所作りなどをした。</li> <li>◆自治会内班長会議、地区民協定例会などに出席し、支援が必要な人の情報を把握した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業の対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。</li> <li>◆地域に出向くことで支援が必要な人の情報を把握することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な人を早期発見できるような支援体制の構築</li> <li>◆支援員及び推進員が地域に出向くことで情報の共有が図られる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆対象者に異変があったときに関係機関と連携し対応した。</li> <li>◆情報の共有化が図られた。</li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆困りごとを抱えている人の情報が入った際には、本人の了承を得て、自宅に訪問する。</li> <li>◆相談者の抱える問題を確認し、必要な関係機関と連絡を図る。</li> <li>◆見守りが必要な人には、関係機関に報告し、見守り体制を強化する。</li> <li>◆ひとり親家庭福祉連合会の事務局を行うことで、支援が必要な人の早期発見に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員からの情報で相談に至るケースが増えた。(生活困窮)地域からの苦情の形で情報が入り支援につながるケースがあった。(日常生活自立支援事業)</li> <li>◆学習支援ボランティア事業を周知し事業利用につながった。</li> <li>◆民生委員専門部会で会の活動を説明し周知をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員からの相談が増えた。</li> <li>◆会員に対し情報提供し支援の必要な人の早期発見に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域との連携で困った人を早期に発見し対応できる仕組み作りを社協内部の連携も含めて検討していく。</li> <li>◆住民向けの事業のパンフレットを作成していく。</li> <li>◆団体との関わりを深めることでニーズキャッチに努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関につながるときには、問題が深刻化している。</li> <li>◆早期発見することで相談者の意欲回復も早まることが考えられるため。</li> <li>◆市関係機関と連携し支援の必要な人に対応できた。</li> </ul>	継続
介護支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が地域の中で地域の人と過ごせる仕組みづくりを訪問介護で行えるか検討と検証の実施</li> <li>◆利用者を介し地域見守り活動と専門職が連携する仕組みづくりを訪問介護で行えるか検討と検証の実施</li> <li>◆検証後事業化を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業の廃止が決定となったため、検討・検証を実施することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業の廃止が決定となったため、検討・検証を実施することができなかった。</li> </ul>	-	D	-	終了
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域における支援が必要な高齢者、障害者の早期発見、支援につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域支援係や生活支援係と連携し、地域での支援が必要な方への継続的な支援を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援における係間の連携ができ、必要な支援の必要な人の発見ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆職員、係間の連携により、支援者の把握を行うことができて来たが、情報の共有できる仕組みづくりの方法をさらに検討する必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援の共有できる仕組みが出来上がっていないため。</li> </ul>	継続
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部団体などとのネットワークを強化</li> <li>◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う</li> <li>◆社協の他の係と連携し、地域課題の解決に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆こどもの支援やフードバンク等の団体と関わったり、勉強会に参加するなど地域課題の解決の検討や情報交換等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部団体との連携により、地域での支え合いの仕組みづくりや子どもの支援の仕組みづくりについてネットワークが出来た。(こども食堂関係者のネットワーク会の発足関わった)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部団体や社協の他の係と連携し、地域課題の解決に関わって行くことが必要。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外部団体との連携や勉強会に参加するなど地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりに関わることが出来た。</li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
つくし	◆つくし利用者の在宅での生活状況の把握にも努め、異変等に合わせたサービス利用につながるよう支援を行う。 また、その家族に対しても同様の支援を行う。	◆変化に合わせたアドバイスや専門機関への助言やサービス利用につながるよう支援してきた。	◆相談支援専門員と連携を図り個人の生活状況や家族状況の変化に合わせた支援を行えた。	◆職員一人一人の知識の向上を常に図る必要がある。	B	◆課題にぶつかりながらその都度、知識と意識の向上が図れている。	継続
心の里	◆利用者の状況を把握し、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。 ◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。	◆利用者の相談支援員と連携し、サービスの利用を促進した。 ◆父母の会と連携し、利用者の継続利用を実現した。 ◆施設見学や実習を受け入れ施設の情報を提供した。	◆関係機関と連携し、利用者の生活改善のため新たなサービスの利用を進めた。他事業所との情報交換を行った。	◆利用者が必要とするサービスの利用開始に向け、関係機関と連携し支援していく。	B	◆見学者の受け入れ及び利用の開始。	継続
ふれあいの森	◆施設内において、利用者さんの変化を察知しいち早くニーズを捉える体制づくりを徹底する。 ◆利用者さんや保護者の方の根底にあるニーズキャッチが出来るように、個別面談等を行う。	◆送迎時に保護者とのコミュニケーションを密にする事で、家庭と施設の情報を共有出来ている。 ◆3者面談等において、個別にニーズキャッチが出来た。 ◆キャッチ出来たニーズは相談支援専門員に繋ぎ、そこから多方面に繋がった。	◆時間に追われながらも、職員の打ち合わせは毎朝欠かす事無く行なって来たことで情報共有が出来ていた。	◆ニーズキャッチをしやすいうように、まずは那須塩原市の地域資源をより理解する事が必須になると思う。(専門職としての情報量)	B	◆全職員が利用者1人1人に対して、愛情と責任を持って支援に当たった。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域見守り活動や、地域ケア会議などを通じて、課題やニーズをキャッチします。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報を共有する方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守りや、日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会での見守り活動を通じて、支援者の情報共有や関係機関の連携を行った。</li> <li>◆地域ケア会議への参加し、地域の課題について検討した。</li> </ul>
生活支援係	◆地域ケア会議に参加し生活困窮者などの事例から実態を知った。
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前年同様、各種研修会に参加し、利用者やその家族の異変に合わせた関係機関につなぐことができるように知識向上を図ることができた。</li> <li>◆職員体制も変わり、より職員間の連携を強めることができた。</li> </ul>
ふれあいの森	◆個別支援会議等で、他機関（ヘルパー・相談支援専門員・他施設・行政・県障がい者総合相談所等）との連携を強化・密にする事により、より良い支援に結びついている。
心の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆1日2回の支援員ミーティングにより常に利用者の状況把握、情報を共有し必要な情報を保護者や関係機関へつないでいる。</li> <li>◆一人暮らしの利用者について、生活状況の把握及び体調不良時の医療機関受診の支援。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実  
 今後の取組 (2) 民生委員・児童委員と連携したニーズキャッチ  
 ① 行政  
 ▶ 民生委員・児童委員と自治会などが連携協力し、地域における福祉ニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。</li> <li>◆民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区民児協定例会に行政関係者の参加を促し、民生委員と連携を密にするよう努めた。</li> <li>◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会長や民生委員等避難支援等関係者と連携する体制を構築することができた。</li> <li>◆地域住民の見守り活動や地域ケア会議において、地域のニーズを把握し自治会と民生委員、児童委員等の関係者と連携して、地域における課題の共有ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆引き続き、自治会、民生委員及び市民に周知・啓発を行う。</li> <li>◆地域課題について話し合う場（協議体）を設置する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域でニーズをキャッチする体制の整備と、キャッチしたニーズを関係機関が活用する仕組みが未整備のため。</li> <li>◆見守り活動に取り組む自治会が増えているが、地域住民が自ら地域課題について話し合う場がなく、ニーズ把握するまでに至っていただため。</li> </ul>	拡充
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員と連携し、ニーズのキャッチに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の会議等に参加し、情報収集をし、地域の現状の把握に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の会議等に参加することで、地域の現状の把握を心がけたが、ニーズをキャッチするまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域における福祉ニーズをキャッチする仕組みづくりを検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ニーズをキャッチするまでには至っていないが、民生委員児童委員からの情報により地域の現状把握ができるようになってきたため。</li> </ul>	継続



## ② 社会福祉協議会

- ▶ 民生委員・児童委員と情報の共有や連携を強化し、ニーズのキャッチに努めます。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりを支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化	◆地区定例会・専門部会に参加し、情報の共有及び連携の強化を図る ◆民生委員と連携し、自治会の見守り活動を支援した。	◆民生委員と連携し情報を共有した。	◆地域のニーズをキャッチする仕組みづくりの強化	B	◆民生委員と連携し情報を共有した。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃から民生委員・児童委員の業務を理解し、自分の住んでいる地域で支援を必要としている人を担当している民生委員・児童委員を把握します。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりに協力します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会の福祉活動（友愛訪問・生きがいサロンなど）を民生委員・児童委員と連携して実施</li> <li>◆日頃から民生委員児童委員及び地域包括と連携し、地域内の課題について協議を行った。</li> <li>◆見守り活動をとおして、困りごとのある住民の早期発見、民生委員との連携体制作りを行った。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進  
 今後の取組 (1) 日常生活を支援する地域における福祉活動の充実  
 ① 行政  
 ▶ 地域課題の解決のための体制づくりを推進します。  
 ▶ ごみ出し、買い物、通院などのボランティアの仕組みづくりを推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域課題の解決のための体制づくりを推進する。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区民児協定例会に行政関係者の参加を促し、地域課題の解決のために民生委員と連携を密にする体制づくりに努めた。</li> <li>◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各自治会が避難行動要支援者制度に主体的に取り組むことにより、各地域の特性、課題が浮き彫りとなり、問題解決のための体制づくりのきっかけとなった。</li> <li>◆見守り活動等の取組自治会が増加し、見守り支え合う地域の関係づくりが進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域課題を話し合いの場の設置について検討し、課題集約の仕組みの確立を図る。</li> <li>◆地域課題について話し合う場（協議体）を設置する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆引続き、地域における体制整備の支援が必要である。</li> <li>◆見守り活動に取り組む自治会が増えているが、地域住民が自ら地域課題について話し合う場がなく、ニーズ把握するまでに至ってほしいため。</li> </ul>	拡充

② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動や生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所づくりの支援</li> <li>◆地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所が増えてきた。</li> <li>◆商業施設を活用した居場所づくりを検討した。</li> <li>◆地域包括とともに寺子地区への支援として、「おくのほそ道」や「G5」を立ち上げ、話し合う場ができた。また、居場所としてカフェもできた。</li> <li>◆地域住民が中心となり、地域にあるショッピングセンター内を会場に居場所づくりのため話し合いを行っている。</li> <li>◆見守り協力員と定期的に話し合う機会を持ち、地域課題等の解決に向け、検討をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉施設等の地域交流スペースなど活用した事業等の支援ができた。</li> <li>◆地域包括、自治会長及び地域住民と密接に連携し、課題について検討することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉施設等の空きスペースを有効活用した事業等の支援強化</li> <li>◆地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて、話し合う場づくりの検討をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域における福祉活動を支援した。</li> <li>◆話し合いの場の選定をした。</li> <li>◆居場所づくりの支援をした。</li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆こどもの支援に関わる団体や居場所づくりに関わる団体などとのネットワークづくりや情報交換を行う</li> <li>◆講座等を開催し地域の仕組みづくりを行う。</li> <li>◆地域支援（福祉）係との連携による地域課題の解決や仕組み作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市内外の活動団体との定期的な情報交換や活動に必要なボランティアや場所の情報提供などを行った。</li> <li>◆10月にボランティアセンター本所を開設し、『地域に開かれた存在』としてボランティアなどの活動の場所として開放している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆VC本所が10月に開設し、ボランティアや様々な団体などの活動拠点として利用されるようになった。</li> <li>◆ボランティアに地域での活動の場の提供ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆さまざまな地域課題に対し、社協だけでなくボランティアと連携し、地域に関わって行くことが必要。</li> </ul>	B	◆地域活動などにボランティアが関われるように支援ができた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場を設け、市や社協などと連携して問題解決に努めます。
- ▶ 自分のできる範囲で、地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動をします。
- ▶ ごみ出し、買い物、通院などの生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりを検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう検討します。
- ▶ 自分のできる範囲で、ボランティア活動などに主体的に参加します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉施設の空きスペースを活用した居場所に参加した。</li> <li>◆2～3ヵ月ごとに地域内（自治会内）で実施している見守り活動について、自治公民館等に集まり、地域の状況及び地域課題について協議（検討）している。</li> <li>◆東那須野地区全域で見守り活動に取り組み、住民同士が支えあう地域づくりをしている。</li> <li>◆らくらくサポーターへの住民の理解を促し、協力を得られるよう働きかけた。</li> <li>◆地域住民助け合い事業を自治会ごとで進めていき、自治会内の課題等を話し合う場や見守り活動を自治会に沿った形で進めた。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進  
 今後の取組 (2) 支援が必要な人への福祉サービスの充実

① 行政

- ▶ 障害がある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、地域生活支援事業の充実を図ります。
- ▶ 認知症の人への支援の充実を図ります。
- ▶ スクールソーシャルワーカーを活用し、学校における諸問題を解決する仕組みの充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、ニーズに応じた福祉サービスの提供に努めます。
- ▶ 一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。
- ▶ 子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくりを検討します。
- ▶ 地域における引きこもりや社会的な孤立を防止する仕組みを検討します。
- ▶ 個別計画を通じて、福祉サービスを提供する民間事業者の育成に努めます。
- ▶ 生活困窮者への支援体制の充実を図ります。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくり ◆一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。	◆子育てサロンを開催した。 ◆子育て短期支援事業（ショートステイ）を児童家庭支援センターやNPO法人に委託して実施した。 ◆一時保育実施保育園等（さきたま、永田保育園・こひつじ・友里かご、コメット、ほし、東、ひまわり保育園・塩原認定こども園） ◆ファミリーサポートセンター ◆休日保育（2か所） ◆病児・病後児保育（3か所）	◆子育てサロンや子育て短期支援事業（ショートステイ）を利用することで、育児不安の解消や家庭の安定につながり、安心して子育てができる環境が整ってきている。病児、病後児保育ファミリーサポートセンターは中学生まで利用できる。課題は、就労のため保育ができない休日や病気の子どもの預け先が少ないこと。	◆子育てサロンマップやHPでの掲載方法の見直しを検討する。 ◆子育て短期支援事業（ショートステイ）の委託先の追加を検討する。	B	◆子育て中の親子の育児不安の解消等に効果がみられるため。 ◆病児、病後児保育の施設が増え、充実が図られている。	拡充

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrによるソーシャルワークの実施</li> <li>◆教職員研修の実施</li> <li>◆SSWrの増員（3名体制）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrによる対応件数2,480件(2月末現在)</li> <li>◆教職員研修もケース介入時に随時実施している。</li> <li>◆SSWr 3名に増員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrが介入することで環境の改善が図られ、児童生徒の成長につながった。</li> <li>◆難しいケースについては、スーパーバイザーの助言を受けながら介入しているが、改善が進まないケースもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ソーシャルワークを進めるに当たっては、SSWr単独でなく、チームとして対応する必要があるが、対応件数も増加している。さらなる増員が望まれる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介入ケースについては概ね良い方向に向かっているため。</li> </ul>	継続
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害のある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、日常生活用具給付事業を拡充する。</li> <li>◆認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>◆認知症初期集中支援チームの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常生活用具給付事業実施要綱を改正した。（食事・調理自助具の追加、情報通信支援用具の範囲を拡大）</li> <li>◆地域自立支援協議会の専門部会において民間事業者の育成及びサービスの質の向上を図っている。</li> <li>◆認知症サポーター養成講座を開催（18会場）し、665人（延べ5,875人）のサポーターを養成した。</li> <li>◆認知症初期集中支援チームを設置した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関とともに福祉サービスの充実、福祉従事者の育成に取り組んでいるが、事業展開は民間事業者の判断によるため、制度改正や報酬改定の影響が大きい。</li> <li>◆認知症サポーターは増加しているが、県内市町と比べ、サポーター数が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日頃からニーズの把握に努め、制度改正や人材育成に取り組み、福祉サービスの量と質を向上させる。</li> <li>◆小中学校、企業や商工会などに加え、地域住民助け合い事業による地域づくりの一つとして、自治会を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関と連携し、福祉サービスの充実について検討がなされているため。</li> <li>◆認知症サポーターが増えることで、地域住民の認知症の理解が広がっている。</li> </ul>	継続



## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 生活困窮者や引きこもりの人・制度の狭間にいる人などへの支援の充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業で自治会の見守り活動を支援	◆自治会の見守り活動や居場所づくりを支援し、地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進 ◆地域住民助け合い事業を推進している中で、地域内で支援が必要な人を把握ができたため、関係機関と連携しながら支援をした。	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進 ◆地域支援会議を通じて支援が必要とする人を把握した。	◆自治会の見守り活動の支援 ◆地域内で支援が必要とする人への支援	B	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進した。 ◆福祉サービスへ繋がる支援をした。	継続
生活支援係	◆支援が必要な方を早期に発見できるよう、関係機関と連携をとり情報共有を図る。	◆行政窓口に出向く方で生活保護まで至らないケースでの相談が増えた。	◆地域との連携がとれていないため制度の狭間にいる人のニーズキャッチができていない。ひきこもりの人との面談を定期的実施しているが、社会参加につながっていない。	◆社協内部の連携と地域の集まりに出向き事業の紹介や情報収集をする。社会の受け皿を作っていく。	C	◆生活困窮者自立支援法の改正により、より充実した支援を提供していかなければならない。	拡充
福祉サービス支援係	◆地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。	◆地域の高齢者・障害者へサービス利用による支援を行うことができた。	◆個別支援を行うことはできたが、孤立を防ぐ仕組みづくりまでは至れなかった。	◆直接的な支援だけではなく、仕組みづくりの支援までを目的とするため、地域ケア会議などを活用した積極的な仕組みづくりの支援に向けての活動が必要。	B	◆地域の中の孤立を防ぐ仕組みづくりの検討が不足していたため。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐための仕組みづくりを検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	◆自治会で支援が必要な人に対する見守り活動を行い、孤立防止に努めた。
生活支援係	◆子どもの健診や行政の手続きの際に困りごとの事業の情報提供があった。

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (3) 権利擁護などの推進体制の充実

## ① 行政

- ▶ DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制の充実を図ります。
- ▶ 成年後見制度の活用及び体制の充実を図ります。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆男女間のあらゆる暴力の根絶を目指した様々な事業を推進する。	◆第2次那須塩原市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画をHPに掲載した。 ◆DV対応マニュアルを策定した。 ◆関係課の実務担当者を対象に研修会を行った。 ◆デートDV防止パンフレットによる啓発	◆DV対応マニュアルを策定したことにより、関係課を含めた対応を統一することが出来た。 ◆研修会を行ったことにより職員のスキルアップを図れた。	◆関係課を含めた継続的なスキルアップ ◆DV防止を目的とした広報啓発の実施	B	◆庁内のスキルアップやDV防止に関する広報啓発を行うことが出来た。	継続
保健福祉部	◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。 ◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。	◆障害者虐待防止法に基づく一時保護の居室の確保に関し、那須地区内の3施設と協定を締結し、緊急時の受入れ体制を整備している。 ◆成年後見制度利用支援事業として、市長申立てにかかる費用や、成年後見人報酬への助成、司法書士会による相談会を実施している。 ◆地域包括支援センターと連携し、高齢者虐待支援、成年後見制度の利用支援及を行っている。	◆居室確保の協定に基づき障害者虐待被害者の緊急一時保護が円滑に行えた。 ◆必要な方が成年後見制度を利用することができる。 ◆現時点では、高齢者虐待や成年後見制度の支援を行っているが、増加する高齢者（特に単身・認知症高齢者）に対応できなくなることが懸念される。	◆障害者虐待防止法による対応方法とDV防止法による対応方法が異なるため、初動時の判断が重要となる。 ◆成年後見制度利用支援事業の認知度が低い。 ◆市及び地域包括支援センターの支援体制の強化	B	◆虐待案件に対しては、関係機関と連携して対応ができていたため ◆地域包括支援センター等と連携し成年後見制度利用、高齢者虐待の対応ができていたため。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協が行う高齢者・障害者・生活困窮者などに対する事業を展開する中で、NPO法人などの関係機関と連携を図りながら支援が必要な人の権利擁護に努めます。
- ▶ 認知症や知的障害があり、日常生活に不安を抱える人などに対し、「あすてらす(日常生活自立支援事業)」での支援の充実を図ります。
- ▶ 権利擁護に関する住民向けの講演会などへ参加できるよう支援の方法について検討します。
- ▶ 行政と連携し、成年後見制度の活用及び体制づくりに努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	◆相談者の中で、権利擁護制度が必要な方に関しては、関係機関と連携しながら支援を進める	◆関係機関との連携は図れてきている結果新規相談が増加している。	◆関係機関への正しい制度理解で支援を必要としている人の見極めが必要。 ◆住民への周知ができなかった。	◆権利擁護に関する住民向けの理解促進を図るため住民向けパンフの作成や研修などを実施できるようにする。 ◆成年後見制度について行政と連携して体制づくりを進めていく。	B	◆日常生活自立支援事業の周知により利用サービスにつなげていく。 ◆成年後見制度の利用促進に向けて行政と連携を図る。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。
- ▶ 権利擁護に関する講演会などに参加し、制度への理解を深めます。

所管	H30実績
生活支援係	◆民生委員に地域で困っている人の情報提供をした。

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (4) 地域包括ケアシステムの構築の推進

① 行政

▶ 総市民・関係団体などと連携し、総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆市民・関係団体などと連携し、地域包括ケアシステム構築のため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆那須地区単位で精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて検討している。 ◆障害者の住宅確保支援として宅建協会県北支部で説明会を開催した。 ◆那須地区単位で精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて検討している。 ◆各種会議を開催した。 ・地域包括ケア推進会議 年1回 ・地域包括ケア推進担当者会議 年6回	◆障害者の住宅確保について理解が進んだ。 ◆高齢分野や障害分野等の地域課題を把握するものの、課題解決に向けた検討や対策を協議する体制となっていない。	◆地域生活支援拠点整備と地域包括ケアシステムの役割、共生型サービス等について更なる検討を要する。 ◆地域共生社会を踏まえ、地域包括ケアシステムを実現する体制を検討する。	C	◆各分野において様々な検討が進められているが、全体的な検討体制となっていないため。	拡充
子ども未来部	◆総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進する。	◆関係団体の勉強会などに参加し情報収集を行った。	◆関係機関（取組に関わる担い手）と情報共有が図られたが、連携体制の確立が必要。	◆総合的な相談・支援体制の仕組みづくりについて研究する。	C	◆地域包括ケアシステムの構築に向けての活動には至っていない。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 行政・市民・関係団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケア推進会議等に参加し地域の課題を検討</li> <li>◆第2層協議体の設置推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケア推進会議等に参加</li> <li>◆第2層協議体の設置のため勉強会の実施</li> <li>◆協議体について、行政、地域包括とともに協議し、情報を共有をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第2層協議体の設置のため勉強会の実施し情報を共有</li> <li>◆協議体について地域包括、行政と協議することにより、連携を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第2層協議体の設置に向け、行政・地域包括支援センターと連携強化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政、地域包括支援センターと連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進した。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域住民助け合い事業などを通して、地域での問題の把握や解決方法の検討などに努めます。
- ▶ 地域ケア会議などの充実に努め、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議への参加し、地域での課題を把握した。</li> <li>◆市、地域包括及び福祉事業の専門職とで毎月テーマに沿った情報交換会を実施している。</li> <li>◆地域住民助け合い事業を実施して地域課題を把握し、方法を話し合った。</li> </ul>



## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (1) 日常生活における移動手段の充実

## ① 行政

- ▶ ゆーバス、予約ワゴンバスなどの公共交通システムの現状を検証し、利便性の向上を図ります。
- ▶ 日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図ります。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活環境部	<p>◆地域公共交通網形成計画を策定する。</p> <p>◆地域バスの運行経路、ダイヤを随時検討する。</p> <p>◆住民懇談会を実施する。</p>	<p>◆地域公共交通網形成計画に基づき、平成30年10月に地域バス路線の再編を行った。</p> <p>◆ゆーバスは、黒磯・西那須野線を那須塩原駅を境に黒磯線と西那須野線に分割し、黒磯内回り線と外回り線を黒磯線に統合。ダイヤの見直し等により運行効率化と利便性向上を図った。</p> <p>◆予約ワゴンバスは、タクシー車両を使用した定路線型の区域運行を行う小さな交通「ゆータク」に変更。運行経費の計算方法をメーター精算方式に変更し、のりばの増設や予約締切時間の繰下げを行うことで、経費の縮減と利用者数の増加を図った。</p>	<p>◆地域バス路線の再編により、需要のある西那須野駅・那須塩原駅・黒磯駅をつなぐ路線の便数を増やし、利便性を向上させた。</p> <p>◆ゆータクの導入により、一部路線を除く予約時間の短縮やのりばの増設、予約の無いのりばは通らずにショートカットを可能として利便性を向上させた。また、メーター精算方式の導入により運行経費を縮減することができた。</p>	<p>◆利用実績の分析や地域の意見を集約することで、地域に根差した交通となるため、公共交通網の整備を実施していく。</p>	A	<p>◆計画的に公共交通網を形成することができるようになり、また、予約ワゴンバスと比べて、運行経費の縮減を達成できたため。</p>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図る。</p>	<p>◆法定サービスとして居宅介護（通院介助）、同行援護、行動援護を提供している。</p> <p>◆福祉タクシー券、車椅子タクシー券の交付している。</p> <p>◆地域生活支援事業として移動支援を実施している。</p> <p>◆タクシー利用券の交付（1,735件 H31.1.未現在）</p> <p>◆高齢者タクシー利用券の交付（2,348件H31.1.未現在）</p>	<p>◆法定サービスの基準に該当しない方、地理的に移動が長距離となる方、サービス提供事業所がない地域の方は利用しづらくなってしまう。</p> <p>◆高齢者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。</p>	<p>◆公共交通機関、コンパクトシティの在り方と連動し、移手段の確保についても検討する。</p> <p>◆病院や商業施設による送迎・移動販売等についても検討してもらおう。</p> <p>◆予約ワゴンバスの見直し状況に応じた本事業の見直し。</p> <p>◆更に支援を充実させるため、アンケート調査により高齢者タクシー利用券の使用状況等を把握し、今後の事業内容について、研究を行う。</p>	B	<p>◆市独自の事業としてタクシー券を交付しているため。</p> <p>◆順調に件数が増加しており、障害者の通院や買物などの日常生活における移動支援に寄与した。</p> <p>◆順調に交付件数が増加し、移動に関する支援が行えているため。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で移動が困難な人の送迎や買い物、通院などの支援を行う住民主体の活動の支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域の中で公共交通も含めた地域課題についての話し合いの場を設け、実践につなげていく。	◆・地域ケア会議で免許返納問題を取り上げ、公共交通の利用や強化、住民同士での助け合いの重要性などについて話し合った。 ◆新しく移動販売を始めようとしている福祉施設へのプロジェクト会議に参加している。 ◆地域の会議やサロン等で移動手段に関するニーズ把握ができた。	◆実際に買い物支援に取り組もうとする福祉事業所が出てきた。 ◆送迎時の事故や責任の所在の課題がある。 ◆移動手段に関するニーズ把握及び検討ができた。	◆普段の関係性から出来る支援とある程度事業化した支援の両方を構築していけるよう支援が必要 ◆公共交通の利用等について、効果的な利用方法を考え、提言する。	B	◆話し合いの場から実践に向けて検討する場が出来てきたため。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などについて検討します。
- ▶ 移動が困難な人の送迎、買い物や通院の支援を検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆にしなすケアネットで高齢者の免許返納問題をテーマとした際に公共交通の効果的な利用などについて話し合った。</li> <li>◆障害者事業所において、移動販売の実施について検討している。</li> <li>◆助け合いの活動の中で移動が困難な方の支援あるいは支援の方法について検討、実施している。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (2) 安心・安全のための生活環境の充実

## ① 行政

- ▶ 公共施設のバリアフリー化の推進を図ります。
- ▶ 安全のため、道路・交通施設の整備を推進します。
- ▶ 道路管理者、警察、学校、PTAなどが連携し、通学路の安全対策を推進します。
- ▶ 空き家、空き地の所有者に対して適切な管理を促します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。	◆新庁舎建設に向け、先進事例の情報収集を行った。 ◆「新庁舎建設基本計画」の策定に向けた検討の中で、「バリアフリー」についての検討を行った。	◆「新庁舎建設基本計画」の中に「バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮」を盛り込んだ。	◆「新庁舎建設基本計画」に基づき、バリアフリー化の推進に向けた検討を進める。 ◆「新庁舎」以外にもバリアフリー化の推進に向けた検討を進める。	B	◆「新庁舎建設基本計画」の策定に向けた検討の中で、「バリアフリー」についての検討をしたため。	継続
総務部	◆施設の維持管理を実施	◆エレベーターの保守点検（エレベーターの運転状態、内装、照明、操作盤等の点検、外部への連絡装置の通話試験等）を3箇月に1回実施。	◆本庁舎のバリアフリー化については、多目的トイレ、身障者用駐車区画、正面玄関スロープ、エレベーター設置済み。安全に使用できるよう維持管理が必要。	◆定期的な点検を行い、不良個所の早期発見、対処を実施することで安全に使用することができる。	A	◆点検の結果、不具合なく良好であったためA評価とした。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活環境部	<p>◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおいて通学路の交通安全対策を行う。</p> <p>◆市民等から空き地の相談を受けた際に、空き地の所有者に対し相談者の希望を伝え、適切な管理を促す。</p>	<p>◆道路管理者、警察、学校と連携して、通学路の危険個所の対策を行った。</p> <p>◆市民等からの空き地相談について、相談者の希望を空き地の所有者に伝えた。</p>	<p>◆平成30年度那須塩原市通学路交通安全対策プログラムを遂行し、通学路の交通安全対策を実施できたが、今後も継続して、関係機関と綿密な連携をとることが必要である。</p> <p>◆空き地の相談について相談者の要望を空き地の所有者に伝え、適切な管理を促した。</p>	<p>◆那須塩原市通学路交通安全対策プログラムにおける関係機関の連携を強化し、児童が安全に登校できる環境を整備する。</p> <p>◆所有者宛の通知が返戻になった場合の対応や、所有者不明土地、管理放棄された土地に対しどのように対応すべきかを検討する必要がある。</p>	A	◆計画を遂行できたため。	継続
保健福祉部	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	<p>◆地域自立支援協議会当事者部会より新庁舎建設に対する意見を聴取した。</p> <p>◆障害者からの意見や要望を随時聴取している。</p> <p>◆高齢者施設のバリアフリー化について、継続して検討。</p>	<p>◆障害者からの意見を聴取する機会はあるものの、設計書が完成してしまふと設計変更は困難になってしまう。</p> <p>◆高齢者施設の不便な箇所の有無を確認する必要がある。</p>	<p>◆公共施設の建設については、設計段階で障害者から意見を聴取する機会を設ける。</p> <p>◆高齢者施設の現状調査を行う。</p>	B	<p>◆ユニバーサルデザインの普及により、バリアフリー化が推進されているため。</p> <p>◆検討する上で必要な現地調査を未実施。</p>	継続
子ども未来部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。	<p>◆放課後児童クラブ建設の際、玄関入口のスロープ設置、児童室床のバリアフリー化、多目的トイレの設置など利用者支援に努めている。</p> <p>◆【H30公設児童クラブ建設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大原間小児童クラブ</li> <li>・鍋掛小児童クラブ</li> </ul>	<p>◆今年度建設した全ての施設でバリアフリー化が図られた。</p> <p>◆整備計画、今後建設予定についてもバリアフリー化を推進する。</p>	◆バリアフリー化が図られていない既存施設についての対応。	A	◆建設した全ての施設でバリアフリー化が図られた。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
産業観光部	<p>◆アグリパル塩原の改修を実施する。(H30～H32)</p> <p>&lt;H30&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶屋根改修</li> <li>▶施設全体改修の実施設計</li> </ul> <p>&lt;H31～H32&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶床、天井、内外壁等改修</li> </ul> <p>◆観光地公衆トイレを順次洋式化する。(H30～H31)</p>	<p>◆アグリパル塩原の改修については、屋根改修工事及び実施設計を完了した。</p> <p>◆観光地公衆トイレについては、2箇所洋式化を実施した。(深山ダム園地、市営板室駐車場)</p>	<p>◆屋根改修の実施により雨漏りの改善が図られた。</p> <p>◆和式のみの方衆トイレについて洋式化し、高齢者や障がい者にもやさしい観光地として、環境改善が図られた。</p>	<p>◆利便性や快適性の向上を図り改修を進める必要がある。</p> <p>◆和式のみの方衆トイレがまだ残っているため、引き続き洋式化を進めていく。</p>	A	◆計画どおり事業を実施できた。引き続き計画どおり工事等を実施していく。	継続
建設部	◆安全のため、道路・交通施設の整備	<p>◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所 7箇所対策実施</p> <p>◆歩道整備(黒磯西岩崎線ほか15路線実施(用地取得等含む))</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム(道路管理者、警察、教育委員会、学校、PTA連携)による、通学路安全対策推進</p> <p>◆歩道の整備</p>	<p>◆毎年度の予算に合わせた整備推進</p> <p>◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所</p> <p>◆歩道整備路線(道路改良路線も含む)</p>	A	◆平成30年度予算分の事業が予定通り実施できたため。	継続
西那須野支所	◆バリアフリー化に向けた調査・検討、実施。	◆点字ブロックの剥がれている箇所の修繕を行った。	◆点字ブロックの修繕を行った。昨年度に引き続き、点字ブロックの剥がれている箇所が多くあり、随時修繕を行う必要がある。	◆施設の経年劣化による不具合については随時対応し、高齢者・障害者等に不便を掛けないよう、段差等の障害物の確認を行い、是正すると共にニーズに合った施設のあり方の検討及び調査を行っていく。	B	◆庁舎周辺は概ねバリアフリー化されているが、今後も施設の経年劣化に伴い、是正を行っていく必要があるため。	継続
塩原支所	◆バリアフリー化に向けた調査・検討・実施	◆支所内の事務室利用検討会議において、バリアフリーのニーズや市民の利用しやすい事務室配置について検討を行った。	◆組織機構の見直しにも対応できる事務室配置や点字ブロックの延長などについても検討を行う。	◆経年劣化による設備改修の必要性を検討し、市民のニーズに沿ったバリアフリー化への調査・検討を行っていく。	B	◆庁舎のバリアフリーについて、事務室の配置も含め今後も継続して検討していくため。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設改修工事に併せ施設のバリアフリー化</li> <li>◆施設のバリアフリー化の推進として、予算内で施設の使いやすさを工夫する。</li> <li>◆道路管理者、警察、学校、PTAなどと連携し、通学路の安全対策を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公共施設のバリアフリー化</li> <li>◆学校トイレのバリアフリー化（黒磯小、鍋掛小、大山小、黒磯北中）</li> <li>◆学校施設の体育館改築による段差解消（黒磯中）</li> <li>◆くろいそ運動場テニスコート整備による多目的駐車場（3台）とスロープを整備</li> <li>◆通学路の安全対策</li> <li>◆危険箇所調査の実施</li> <li>◆通学路安全推進会議の開催</li> <li>◆対策箇所一覧表を市ホームページで公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆トイレ洋式化改修工事において、床モルタル打設工事の実施により、床段差解消が図られた。</li> <li>◆体育館改築により、体育館入口にスロープを設置し、段差解消が図られた。</li> <li>◆社会体育施設のバリアフリー対策が図られた。</li> <li>◆通学路交通安全対策プログラムに基づく取組により、関係機関が連携した安全対策の推進を図ることができた。</li> <li>◆施設数が多いため、計画的、継続的な施設のバリアフリー化が必要であり、多額の費用を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各施設でバリアフリー化の推進を図るのではなく、公共施設全体でのバリアフリー化整備計画策定の検討が必要である。</li> <li>◆バリアフリー化の推進には、ソフト面の対応も心がける必要があり、職員や施設利用者の他者への配慮、思いやりなどの「気づき」を心がけていく必要がある。</li> <li>◆通学路安全対策の取組については、PDCAサイクルとして継続的に実施する必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設の改修工事等に併せバリアフリー化が図られ、通学路安全対策についても目標とする取組が概ね実施できた。</li> </ul>	継続



## ② 社会福祉協議会

- ▶ 行政と連携を図りながら地域の中でのバリアフリー化を推進します。
- ▶ 地域住民の安心・安全に向けた活動を支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆バリアフリーの場所を地域に伝える。</li> <li>◆地域住民の活動への支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア団体や市民活動団体へボランティア保険加入を勧めた。</li> <li>◆認知症サポーター養成講座の実施を勧めた。</li> <li>◆福祉協力店の情報をホームページに掲載し、そこにバリアフリーであるかどうかの情報も掲載した。</li> </ul>	◆バリアフリーの場所の情報を福祉協力店に限るが発信した。	◆建物以外にも地域内にある危険な場所を把握し、共有することも必要。	B	◆ホームページやボランティア保険を活用した。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 市の補助制度を活用した、自治公民館のバリアフリー化を検討します。
- ▶ 交通ルールの遵守やマナーの向上に努めます。
- ▶ 普段から近所同士で声をかけ合い、支援が必要な世帯への気配りを行います。
- ▶ 草刈りや除草活動を通じ、通学路の環境保全に努めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業を進めている中で、心配な世帯への支援を行っている。</li> <li>◆地域のサロンで利用している元小学校の一部トイレを和式から洋式で使えるよう簡易便器を設置した。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (1) 地域における防災体制の充実

## ① 行政

- ▶ 地域の防災リーダーの養成・育成の充実に努めます。
- ▶ 自主防災組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 地域での防災のため情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりをします。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆防災士養成事業及び防災士資格取得者研修会の実施 ◆自主防災組織育成支援補助金の交付 ◆自主防災組織結成の支援	◆防災士養成講座（12/15・16）により、57人が新規に防災士を取得した。 ◆防災士研修会（1/27 防災講演会）を実施した。 ◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備に対し補助金を交付した。 ◆5月に自主防災組織未結成の自治会を対象に、結成促進のための説明会を実施した。	◆養成事業による防災士資格取得者が446人となった（地域推薦295人）が、人材活用に地域差がある。 ◆自主防災組織の結成率が目標に至っていない。	◆地域の防災リーダーとしての防災士の活躍の場づくりについて検討を行う。 ◆自主防災組織未結成自治会への個別支援を強化する。	B	◆地域の防災リーダーとなる防災士の養成、育成、自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続
保健福祉部	◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを構築する。	◆避難行動要支援者制度について、自治会や民生委員に対して制度の説明を行い、また、地域における制度の周知を依頼した。	◆避難行動要支援者制度について、自治会や民生委員等の地域支援等関係者の制度への理解が深まった。	◆避難行動要支援者制度について、一般市民の制度理解を高める必要がある。	B	◆避難行動要支援者制度について、全体的にみれば一定程度の理解が得られた。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民が行う自主防災組織や防災訓練などの活動に対する支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中での防災情報の共有や活用方法などのルールづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営を行い、ボランティア活動を支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆避難行動要支援者、自主防災組織と地域住民助け合い事業との連携強化	◆地域住民助け合い事業を推進していく中で、普段のつながりが災害時の支援にもつながることを啓発している。 ◆地域住民から助け合い事業が避難行動要支援者や自主防災組織等と連携した取組をしている自治会への支援を行った。 ◆地域での防災訓練の支援を行った。	◆関連する制度、事業との連携を強化していく必要がある。 ◆自治会未加入者への対応策の検討	◆地域に暮らす人全てが支え合いの対象になり、自治会などの負担にならない防災体制の構築	B	◆地域住民助け合い事業と避難行動要支援者支援制度を連携して取り組んでいる自治会への支援を実施している。	継続
総務・経理係	◆BCP（事業継続計画）研修に担当者が参加し、本会独自にBCP研修会を実施。	◆BCPを理解することで災害への意識を高めることができた。	◆災害ボランティアセンター立上げをするにもBCPの策定が重要であると考え、今回、正職員を対象としたBCP研修会を開催し、BCPの必要性について学ぶことができた。	◆本会正職員がBCPについて、学んだことで災害に対する意識を高められた。	B	◆次年度にBCPの策定ができる基盤ができた。	継続
ボランティアセンター	◆中高校生ボランティアサマースクールのプログラムに災害についての体験をいれ、災害について学ぶ。	◆中高校生ボランティアサマースクールでの災害講座は、台風のため中止になったが、中高校生向けの災害講座を開催。 ◆ボランティア交流会で避難所運営ゲームを行った。	◆中高校生をはじめ、地域やボランティアに災害や防災について学ぶ事業を開催できた。	◆事業を行い多くの人に災害や防災について学びや考える機会を今後も続けていく必要がある。	B	◆ボランティアや地域住民を対象に災害や防災に関する事業が開催できた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりに努めます。
- ▶ 自主防災組織へ全戸参加できるように努めます。
- ▶ 定期的な防災訓練の実施に努めます。
- ▶ 防災のための情報の共有や活用方法などについてのルールづくりをします。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い助け合い事業や避難行動要支援に取り組み、災害時の体制づくりを行っている。</li> <li>◆防災訓練を定期的開催している。</li> <li>◆コミュニティや自治会において避難所運営ゲームを行い、災害時への準備・体制づくりを行っている。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害担当者が、BCP（事業継続計画）研修に参加し、BCPについてを学び、また本会正職員を対象にBCPとは何かについてを学ぶことができた。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (2) 地域で取り組む防犯活動の充実

## ① 行政

- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 自主防犯組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらう。	◆全小学校で、学校安全ボランティアを組織している。今年度は1,198名の登録があり、登下校等の際の指導に当たってくれている。	◆昨年よりもボランティアの人員約270名減になっている。人員不足から当番制になっている学校も多く、保護者の負担も大きい。	◆地域の協力が得られるよう、地域と行政が連携して組織を作り、人材確保ができることよい。	B	◆各学校では、ボランティアによる見守りはできているが、地域への啓発や関係部署との連携まではいかなかった。	継続
生活環境部	◆自主防犯組織の結成や活動を支援する。 ◆高齢者本人及び高齢者を見守る立場の人たちへの啓発を行う。 ◆特殊詐欺撃退機器無償貸与事業を実施する。	◆自主防犯団体について、活動支援補助金の交付や防犯研修の実施を通し、新規団体の設立、既存団体活動を支援した。 ◆消費生活相談員による出前講座や公民館高齢者学級での啓発、店頭啓発やホームページ及びみるメールでの特殊詐欺等の情報提供を行った。 ◆特殊詐欺撃退機器無償貸与事業について、機器の追加購入により貸与台数を増やしたこと、貸与期間の更新を可能としたことで事業の活用を促した。	◆自主防犯活動の支援補助金については前年度を大きく上回る申請があり、地域の防犯活動に寄与できたことが成果。 ◆前年度に引き続き防犯研修を実施し、前年を上回る参加人数となったこと、また小学校教員の参加が増えたことが成果。 ◆啓発事業により注意喚起を行うことができたが、講座やセミナーへ来られない人たちへの啓発が課題。 ◆撃退機器貸与により被害の防止を図れたが、貸与期間終了後の見守り対策が課題。	◆防犯研修について、より多くの方に参加してもらえるよう実施時期や時間帯について、団体の活動時間帯等を考慮する。	A	◆スケジュール通りに遂行できたため。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進する。</p> <p>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターによる総合相談を実施する。</p>	<p>◆地域包括支援センターでの総合相談の中で、高齢者への啓発及び見守りを実施した。</p>	<p>◆地域包括支援センターが高齢者からの相談を受ける中で、消費者トラブルの被害から守ることができた。</p>	<p>◆関係機関と連携を取り進めていく必要がある。</p> <p>◆日頃からの付き合いなどを通じた、地域の連帯に基づくさらなる防犯力の向上が求められる。</p>	B	<p>◆地域包括支援センターや民生委員等地域との連携により、悪徳商法の被害防止体制が構築されつつあるため。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討する。	◆地域での防犯活動について現状把握に努めたが、直接的な支援はできていない。	◆地域内のスクールガードや防犯パトロールの実態について把握する。	◆現状把握に努め、関わり方を検討していく。	C	◆直接的な支援はできていない。	継続



## ③ 市民や関係団体

- ▶ 近所同士で日頃から声かけや目配りをし、不審者の出入りに注意します。
- ▶ 地域ごとに防犯パトロールの仕組みづくりを検討します。
- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 周囲に消費者トラブルの被害が疑われる人がいる場合には、消費生活センターなどの相談機関へつなぎ、被害の未然防止・早期発見・拡大防止を図ります。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業において声かけや見守りを行い、防犯活動につながっている。</li> <li>◆声かけや見守り、普段の会話の中から消費者トラブルの防止・早期発見につながっている。</li> <li>◆スクールガードや防犯パトロールを実施している。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実  
 今後の取組 (3) 災害時における避難行動要支援者への支援体制の充実
- ① 行政
- ▶ 自主防災組織や地域見守り組織と連携し、見守り体制を充実します。
  - ▶ 避難行動要支援者の個別計画の作成を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者の個別計画の作成を推進する。</li> <li>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、自主防災組織や地域見守り組織と連携した見守り体制を充実させる。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、各自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</li> <li>◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、個別計画の作成率が56.7%となった。</li> <li>◆見守り活動等取組自治会が増加しているが、取り組みをしていない自治会がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、未協定自治会に対して、粘り強く制度の説明をしていく。</li> <li>◆普段から見守り等の助け合いによる地域とすることで、り、緊急時や災害時の互助による支援体制の構築をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、全体的に事業が進捗した。</li> <li>◆見守り活動に取り組む自治会が増えているため。</li> </ul>	継続
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の結成促進、活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者に対する支援において大きな役割を担う自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するために補助金を交付した。</li> <li>◆自主防災組織未結成の自治会を対象に、組織の結成や自主防災活動に関する説明会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。</li> <li>◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域住民助け合い事業を通して支援していく。	◆助け合い事業において地域にあった支え合いの方法と一緒に検討している。 ◆コミュニティの研修において避難所運営ゲーム(HUG)を実施した。 ◆助け合い事業と避難行動要支援者支援制度との連携に関し、日頃からの見守りが必要である旨の説明をし、理解をいただいた。	◆避難所運営ゲームを実施したことで、日頃からのつながりや情報共有が重要であるという意識が増した。 ◆助け合い事業と避難行動要支援者支援制度との連携強化が図られた。	◆災害時や助け合いの取り組みは一体的に行っていく必要があるため、市や社協などの関係機関も一体的な支援が必要。	B	◆防災・防犯は日頃からのつながりが必要であることが地域内でも理解が進んでいる。	継続
総務・経理係	◆市総合防災訓練に参加する。	◆市総合防災訓練に参加し、日赤奉仕団(地域婦人会)と協力して防災訓練参加者の昼食を兼ねた炊き出し訓練を行った。	◆日赤奉仕団(地域婦人会)にも協力いただき、炊き出し訓練(ハイゼックス、カレー)を行った。	◆炊き出し訓練以外で社協として、できることを協議していきたい。	B	◆日赤奉仕団と社協で連携ができた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守り体制の充実に努めます。
- ▶ 災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の状況や特徴を踏まえて地域ごとに自主防災組織・見守り体制の充実に努めている。</li> <li>◆助け合い事業・避難行動要支援者からの情報を集約し、支援体制の充実に努めている。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市総合防災訓練に参加し、日赤奉仕団（地域婦人会）と協力して防災訓練参加者の昼食を兼ねた炊き出し訓練を行った。</li> <li>◆また、ハイゼックスでの炊き出しについて、説明し自治会等での訓練時への協力についてもPRした。当日、広島県豪雨災害の義援金を募った。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり  
 今後の取組 (1) 地域での居場所づくり  
 ① 行政

- ▶ 子どもの遊び場となる公園などの適切な管理、整備を図ります。
- ▶ 放課後児童クラブ、子育てサロン、生きがいサロンの充実・活性化を図ります。
- ▶ 子どもや高齢者などの地域での居場所づくりを行っている任意団体への支援策を検討します。
- ▶ 福祉活動の場としての空き家の活用を検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
建設部	◆29年度で終了予定だった社会資本総合整備交付金事業における都市公園施設を長寿命化させるための更新工事計画を31年度まで延伸した	◆大山公園、とようらコミュニティ公園、鳥野目河川公園、黒磯公園における遊具等の老朽施設更新工事を実施した。	◆計画どおり更新工事を実施した。	◆老朽化した施設を更新し、安心安全な都市公園を維持する。	A	◆計画どおり更新工事を実施できたため。	継続
子ども未来部	◆子育てサロンの充実を図る。 ◆子どもの居場所づくりとして、要支援児童放課後応援事業をNPO法人委託、支援する。 ◆放課後児童クラブの充実・活性化を図る。	◆子育てサロンの実施。 ◆要支援児童放課後応援事業をNPO法人(2か所)に委託して実施した。 ◆公設民営児童クラブ(黒磯地区10クラブ・西那須野地区11クラブ・塩原地区3クラブ) ・民設民営児童クラブ(黒磯地区9クラブ・西那須野地区5クラブ・塩原地区1クラブ) 合計39クラブ(3月末現在)	◆子育てサロンで遊び場の提供や子育て相談等を行うことで、家庭における子育ての支援につながった。 ◆公設民営児童クラブはH29から法人に一括で委託することにより運営が統一され、保育料や支援員待遇も統一された。また民設クラブも概ね基準に沿った運営がなされている。地域連絡協議会を設置し、開催した。	◆研修会に参加し、継続的なスキルアップを図る。 ◆家庭の状況に応じた支援の検討。 ◆那須塩原市放課後児童クラブ整備計画に沿って、引き続き施設整備に努める。	B	◆関係機関との連携により、充実して実施することができているため。 ◆公設・民設ともに概ね安定した運営が行われており、保護者の仕事と子育ての両立支援が図れている。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいサロン推進事業の実施</li> <li>・街中サロン事業の実施</li> <li>・元気アップデイサービス事業の実施</li> <li>・シニアセンターを拠点とした居場所づくり</li> <li>・いきいき百歳体操</li> </ul> <p>◆(空き家活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉活動の場としての空き家の活用を検討する。</li> </ul>	<p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいサロン運営支援60箇所</li> <li>・街中サロン運営支援2箇所</li> <li>・元気アップデイサービス27コース開催</li> <li>・シニアセンターにおける各種介護予防事業等実施</li> </ul> <p>◆いきいき百歳体操21箇所(H30.3.9現在)</p> <p>◆(空き家活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉事業所として、空き家や小学校跡地等が活用されている。</li> </ul> <p>生きがいサロン運営支援60箇所</p> <p>※補助金の見直しを行い、H31年度以降の支援内容を充実した。また、新規に実施しやすくなるよう人数要件の見直しを行った。</p> <p>◆街中サロン運営支援1箇所</p> <p>※街中サロンに対する運営支援について検討し、今後は、生きがいサロンに注力することとした。</p> <p>◆元気アップデイサービス開催26コース開催</p>	<p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくりをとおり、高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。しかし、街中サロンについては、事業内容の恒常化と共に、利用者が減少傾向にある。</li> </ul> <p>◆(空き家活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家等の活用はされているが、情報入手は民間福祉事業者が独自に行っている。</li> <li>・子どもから高齢者までがコミュニケーションが図られ、生き生きと活動できるような場を作っていくことが求められる。</li> </ul> <p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいサロンの実施団体や参加者数を増加していく必要がある。</li> <li>・街中サロンひなたぼっこの今後の動向を確認する。</li> </ul>	<p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街中サロンについては、今後の在り方を検討する必要がある。</li> </ul> <p>◆(空き家活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家等の情報集約、情報提供について一元化する。</li> <li>・若い世代を含め、より多くの人に参加しやすく、また、より地域に密着し、地域の実情に応じた交流機会の創出が必要。</li> </ul> <p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいサロンの補助金等の見直し内容を広報等によりPRし、実施団体の増加を図る。</li> </ul>	B	<p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいサロン、いきいき百歳体操の箇所数が増加した。その他の事業については、利用状況が未確定であるが、高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。</li> </ul> <p>◆(空き家活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家等の情報提供体制は整備されていないものの、福祉活動の場として実際に活用されているため。</li> </ul> <p>◆(居場所づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があった。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもや高齢者の居場所づくりを支援します。
- ▶ 地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもや高齢者の居場所づくりを支援する。</li> <li>◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どもの居場所づくり検討会が地域住民の声から立ち上がり、空き家や公共施設を活用に向けて話し合いを行っている。</li> <li>◆にしなすケアネットにて、「空き家」をテーマに実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆住民主体の子どもの居場所検討会が立ち上がった、高齢者の居場所を把握し支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆居場所づくりや空き家活用を行うときには、多くの機関、地域の力が必要になり、想いだけでは成立しないことへの協力や理解が必要。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域からのニーズに合わせて、居場所づくりの支援を積極的に進めている。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 子育てについて気軽に話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 放課後や休日など一人にいる子どもなどが集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 子育てサロンなどの開設に向けて検討します。
- ▶ 高齢者が集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 空き家を福祉活動の場として活用できるよう検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会独自で子育てサロンを実施している。</li> <li>◆生きがいサロンやいきいき百歳体操などを実施している。</li> <li>◆趣味やサークル活動を自治公民館などで行っている。</li> <li>◆公民館や福祉施設の空きスペースにてケアラズカフェや居場所づくりを実施している。</li> <li>◆地域の元小学校の教室を一部活用し、高齢者の居場所づくりを行っている。</li> </ul>



平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり  
 今後の取組 (2) 地域での活躍の場づくり  
 ① 行政

- ▶ ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やします。
- ▶ スクールガードや見守り活動など、地域における高齢者の活躍の場を増やします。
- ▶ 障害者の働ける場の確保に努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やします。	◆ボランティア活動の場として、市内公立保育園でボランティアの受け入れを実施。	◆中高生等のボランティア活動の場として受け入れ態勢はできている。	◆中高生等のボランティア活動の場として受け入れ態勢はできている。	B	◆中高生等のボランティア活動の場として受け入れ態勢はできている。	継続
保健福祉部	◆（子どもの活動の場） ・ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やすよう提案する。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブの活動支援 ・シルバー人材センターの活動支援 ・生涯学習、スポーツ、レクリエーション活動の場の提供 ・介護支援ボランティアポイント事業の推進 ・地域づくり型介護予防サポーター養成事業 ◆（障害者の働ける場） ・障害者の働ける場を確保する。	◆障害者枠での就労を希望する方の手帳取得を支援した。 ◆地域自立支援協議会事業所部会（就労グループ）で就労系サービスの量と質の向上を図った。 ◆那須塩原市商工会理事会において障害者雇用について説明を行った。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブ運営支援55箇所 ・老人クラブ連合会スポーツ大会運営支援 ・シルバー人材センター活動支援 ・シルバー作品文化祭開催※シルバー大学校同窓会会員と連携して開催 ・介護支援ボランティア活動登録者（145人 H31.3.5現在）	◆（障害者の働ける場） ・障害者の法定雇用率の改定や就労系サービスの充実により、一般就労・福祉的就労の場は増えている。 ◆（高齢者の活動の場） ・高齢者の豊富な経験や知識、技能を生かした地域での活躍の場づくりにより一定の効果があつた。 ・老人クラブについては、箇所数及び会員数とも近年減少が続いている。 ・シニアサポーターを活かした生涯現役応援体制構築に向けた作業が行えなかった。	◆（障害者の働ける場） ・室内での単純作業や複雑な作業工程、屋外での農作業や清掃作業等、障害者の特性や能力に応じ、就労先を幅広く確保することが課題である。 ◆（高齢者の活動の場） ・老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。 ・シニアサポーターを活かした生涯現役応援体制の構築を進める。	B	◆（障害者の働ける場） ・障害者の就労機会は増加しているため ◆（高齢者の活動の場） ・各種事業の実施により地域での活躍の場づくりに一定の効果があつた。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらっており、祖父母の協力も得る。学校から自治会にも周知を行い、協力者を募る。	◆各学校で全保護者及び自治会に学校安全ボランティアの希望を募り組織を編成した。	◆学校が主体で組織してもらっているが、学校だけでは安全確保に十分な人材を確保することは難しい状況にある。地域人材の協力が必要である。地域と連携することが必要である。	◆組織編成に当たって自治会や敬老会に協力を依頼し、地域で子どもの育成をしていくことに協力してもらおう。	B	◆各学校では、ボランティアによる見守りはできているが、地域への啓発や関係部署との連携までにはいかなかった。	継続
総務部	◆職員採用における障害者枠の設置	◆採用者0名（H31年4月1日付け）※応募者無し	◆法定雇用率の確保（H29まで2.3%→H30から2.5%に引上げ）	毎年計画的に採用する必要がある。	A	◆採用には至らなかったが、臨時職員の障害者雇用により、法定雇用率は確保できる見込みである。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 高齢者が地域の中においてボランティア活動などで活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業を推進していくなかで住民の活躍の場を意識していく。</li> <li>◆高齢者が地域の中においてボランティア活動などで活躍できる場づくりの支援の方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア保険を提案し、安心した活動ができるよう支援している。</li> <li>◆助け合いにおいて、地域の高齢者同士の見守り等がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆住民主体で実施している生きがいサロンやいきいき百歳体操などを支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中でできることを住民とともに考え、実践していく仕組みの構築</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆住民の活躍の場づくりを意識した支援が行えている。</li> </ul>	継続
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政や関係機関、地域などとのネットワーク強化</li> <li>◆子どもや若者が地域活動に参加できるように支援</li> <li>◆ボランティア活動の情報提供</li> <li>◆高齢者が地域活動、ボランティア活動に参加できるように支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆協働のまちづくり会議や県北若者社会貢献活動会議等に参加し高齢者や若者の活動の場などの検討や事業に取り組んだ。</li> <li>◆高校生ボランティアグループとんぼの会が行う研修や活動に協力。</li> <li>◆ボランティアへのボランティア活動の情報提供</li> <li>◆若者や高齢者など多世代にボランティア活動への参加のPRを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高校生ボランティアグループとんぼの会が警察やボランティア団体と協働で事業を行い地域で活躍できる場づくりが出来た。</li> <li>◆ボランティア情報を発信し、活動の場の提供を行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆今後もボランティアの高齢化や若者の地域活動の推進などの課題解決に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆VCが2ヶ所になり、専任職員も3名体制（本所2名、黒磯1名）となり、ボランティア活動に対し今までより支援できるようになった。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。
- ▶ 高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりについて検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社会福祉施設や地域の元小学校の教室を一部活用し、高齢者の居場所づくりを行っている。</li> <li>◆老人クラブや生きがいサロン、公民館活動等において高齢者が主体となって活動した。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実

今後の取組 (1) 子どもの見守り活動の充実

① 行政

▶ スクールガードなどの見守り活動の充実を図ります。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）であることを周知するために、ベストを着用して活動に当たれるようにする。</p> <p>◆スクールガード（学校安全ボランティア）用のベストの必要枚数を把握し、充実を図る。</p>	◆各学校に対し、必要枚数を配布した。	◆スクールガード用のベストを各学校に補填することができた。	◆ベストを新しくしたことで、色が鮮やかで目立つようになり効果的になった。	B	◆各学校消耗の激しいものについての交換対応は終了した。今後は、充実した活動となるための課題について検討したい。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討する。	◆地域内での見守りを進める中で子どもへの見守りも必要であるというニーズを把握した。	◆子どもへの見守り活動の状況とニーズを把握する。 ◆スクールガードの活動との協働	◆地域の中の見守りを高齢者だけでなく、子どもにも拡げていく。	C	◆地域のニーズを把握したが、直接的な支援はできていない。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中でスクールガードなどを行います。
- ▶ 子どもが地域で安心して遊ぶことができるよう見守りをします。
- ▶ 積極的に子どもたちとあいさつを交わします。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コミュニティ・自治会においてスクールガード、子どもの見守り活動を実施している。</li> <li>◆コミュニティや自治会のお祭り、世代間交流事業などで子どもと地域の方が交流を図り、日頃からのつながりづくりに繋がっている。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実  
 今後の取組 (2) 支援が必要な人への住民の見守り活動の充実  
 ① 行政  
 ▶ 総全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指します。  
 ▶ みるメールなどのICTツールを活用した見守りシステムの構築を検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指す。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、順次自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</li> <li>◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、個別計画の作成率が56.7%となった。</li> <li>◆見守り活動等取組自治会が増加しているが、取り組みをしていない自治会がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、未協定自治会に対して、粘り強く制度の説明をしていく。</li> <li>◆自治会に直接出向き、見守り活動等の取り組みを働きかけ続ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、全体的に事業が進捗した。</li> <li>◆見守り活動に取り組む自治会が増えているため。</li> </ul>	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆住民主体の見守り活動の実施を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の地域見守り活動からの情報提供により、支援が必要な児童の把握に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員の会議等に出席することで、地域の現状の把握に努めた。</li> <li>◆研修会等で児童を取り巻く状況等の情報提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域での見守りの重要性について周知していく必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の現状の把握に努めた。また、地域の児童に対する関心が高まりつつある。</li> </ul>	継続
企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題抽出</li> <li>◆現状分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害や暮らしに関連する様々な情報を提供する「みるメール」の機能や活用方法を検討し、「命を守る情報」カテゴリを設け、重要な情報が提供できる仕組みを作った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆既存の情報提供ツールでは、期待する見守り効果が得られないことが判明したため、改めて担当部署と協議を行い、目的を達成できる仕組みの検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆担当部署と定期的に協議・調整を行う機会を設け、理想とする「見守り」の在り方を共有した上で、仕組みづくりについて検討を行う。</li> </ul>	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆担当部署との調整が必要かつ、新たな仕組みづくりが必要であるため。</li> </ul>	改善



## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業の推進・強化</li> <li>◆地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆助け合い事業を推進、展開している。◆高齢者等の心配な方への見守りや生活支援を実施している。</li> <li>◆助け合い事業を行う自治会などの報告会に参加し、地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動について専門機関とともに協議をし、今後の支援活動について検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り活動からの生活支援まで発展させる必要がある。</li> <li>◆自治会長をはじめ、地域住民及び専門機関と地域の状況把握に努め、支援が必要とされている方々の確認を行った。</li> <li>◆見守り活動、体制の支援ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆積極的な見守りや生活支援に向けて、日頃からの関係性の構築が必要</li> <li>◆支援が必要とされる方々を把握してもらい、今後の支援活動につなげる。</li> <li>◆見守り活動の支援体制を充実する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り活動は順調に推進している。</li> <li>◆専門機関と連携し、必要な支援ができています。</li> <li>◆見守り活動、体制の支援ができた。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自分でできる範囲で地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動を行います。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者への友愛訪問や子どもへの見守り、スクールガード等において見守りを行っている。</li> <li>◆地域住民助け合い事業の対象者と避難行動要支援者支援制度の対象者の見守り活動をしている。</li> <li>◆地域住民助け合い事業を通して、自治会内で話し合いを重ねながら、自分たちでできる範囲で地域の中で心配な人に対する見守り活動をした。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実  
 今後の取組 (3) 支援が必要な人の情報収集・情報活用の充実  
 ① 行政  
 ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。  
 ▶ 見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを実施する。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、順次自治会に同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</li> <li>◆地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、自治会や民生委員の制度理解が深まった。</li> <li>◆見守り活動等取組自治会が増加しているが、取組みをしていない自治会がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、一般市民への制度理解を深める必要がある。</li> <li>◆自治会に直接出向き、見守り活動等の取組みを働きかけ続ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、市と自治会・民生委員との連携が取れつつある。</li> <li>◆見守り活動に取り組む自治会が増えているため。</li> </ul>	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。</li> <li>◆見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報提供の呼びかけはしているものの、明確なルールづくりはしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報提供の呼びかけはしているものの、明確なルールづくりはしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆簡単なマニュアルを作成する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆情報提供の呼びかけはしているものの、明確なルールづくりはしていない。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆支援が必要な人の情報収集・情報活用について検討する。	◆地域内での見守り対象者と避難行動要支援者の刷り合わせを行った ◆民生委員や地域包括支援センターとの情報共有を意識した。 ◆地域の中で心配な人の情報収集や状況把握について、情報を共有するため、福祉マップを活用して心配な人の確認をした。 ◆活動した際の記録表等を収集し、状況を把握している。	◆地域住民助け合い事業だけでなく、他機関・他事業との連携を意識し、情報共有や支援を行った。 ◆福祉マップを活用して地域の中での情報の共有化が図られた。 ◆定期的な情報交換の機会や活動記録表を収集することで状況把握、共有ができた。	◆支援が必要な人に対して、地域全体で関わる姿勢が重要。 ◆福祉マップの必要性について理解が得られた。 ◆見守り活動を他地域へ広げる。	B	◆他機関・他事業との連携を意識して効率的な情報共有ができています。 ◆地域の中での情報把握ができています。 ◆定期的な情報交換の機会や活動記録表を収集することで状況把握、共有ができた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で情報を収集し、情報共有の仕方や活用方法などのルールづくりについて検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守りマップの作成や班長等からの情報を基に見守りや支援が必要な方を把握し、地域内で情報共有する。</li> <li>◆見守りマップ等で把握した情報を基に助け合い活動を検討し実施している。</li> <li>◆個人情報保護の観点から見守り実施前に本人への意向確認、同意を得ている。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり

今後の取組 (1) 障害者への理解の促進

① 行政

- ▶ 障害者差別解消法の周知に努めます。
- ▶ 広報などを活用し、障害者施設での事業をPRします。
- ▶ 企業、地域住民への啓発活動を充実します。
- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 地域における障害者の情報共有の方法を検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆障害者差別解消法の周知に努める。 ◆広報などを活用し、障害者施設での事業をPR ◆企業、地域住民への啓発活動を充実する。 ◆市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深める。 ◆地域における障害者の情報共有の方法を検討	◆障害者差別解消推進用パンフレットを関係機関に配付 ◆市のポータルサイトで市内の障害者施設の紹介 ◆ヘルプカードを配布	◆障害に対する住民理解の促進と、情報発信について新たな試みを実施しているが、普及には時間を要する。	◆障害者差別の根絶には、教育、医療、福祉、就労等の関係機関だけでなく、住民や事業者の意識を変えていく地道な活動を継続していく必要あり。	B	◆少しずつではあるが、障害者に対する差別の解消に向けた取り組みを行った。 ◆企業や地域住民への啓発活動を強化していく必要あり。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 社協だよりやホームページなどに障害に関する情報を掲載し、地域住民への啓発活動を充実させます。
- ▶ 地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援の方法について検討します。
- ▶ 地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりを支援していく。</li> <li>◆地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進する。</li> <li>◆地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりにより障害者に関する記事を掲載した。</li> <li>◆障害者への理解を深めるための啓発隊発足についての話し合いに参加した。</li> <li>◆住民との勉強会の中に「障害者」をテーマに取り上げた。</li> <li>◆福祉マップを通して地域の中で障害者の状況把握を行い、見守り活動の支援につないだ。</li> <li>◆障害者当事者団体への支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者が地域で安心して暮らせるようにするのはどうすれば良いのか住民が考える機会を増やした。</li> <li>◆福祉マップを通して、地域の中の障害者を把握することにより、障害者の見守りを行っている。</li> <li>◆地域の助け合いにおいて、障害者についても検討することで、理解が深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆共生型の地域づくりが進むよう、住民と高齢者の交流を支援する。</li> <li>◆地域の中で安心して住みやすい地域となるよう、地域住民が障害者を理解し、関心が持てるよう支援する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者への理解が進むよう、啓発活動に取り組んだ。</li> <li>◆地域の助け合いにおいて、障害者についても検討することで、理解が深めることができた。</li> </ul>	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。</li> <li>◆定期的にHPの更新を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりにおいて、障害についての記事や情報を掲載した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりにおいて、障害についての記事や情報を掲載したが、全体としての割合は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆年度は、情報発信量を増やしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全体と比較して情報発信量は少ないながらも、定期的に情報発信をすることができた。</li> </ul>	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民や施設等に対して、事業の理解を深めるため、事業説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆にしなすのケアネット、地区民協定例会事例を交えながらで事業説明を行い周知を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民に対しての事業の周知ができていない。</li> <li>◆社協だよりにより相談事例をシリーズ化し、周知につとめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障がい者の集まり、当事者団体への周知活動をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域に事業説明することができていない。引き続き、説明の場を設けるための検討をしていく。</li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
介護支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が地域の中で地域の人と過ごせる仕組みづくりを訪問介護で行えるか検討と検証の実施</li> <li>◆利用者を介し地域見守り活動と専門職が連携する仕組みづくりを訪問介護で行えるか検討と検証の実施</li> <li>◆検証後事業化を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業の廃止が決定となったため、検討・検証を実施することができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業の廃止が決定となったため、検討・検証を実施することができなかった。</li> </ul>	-	D	-	終了
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討する。</li> <li>◆あわせて、障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害福祉サービス事業所連絡会への参加や相談支援部会等の出席により障害者の情報共有を行うことができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆専門職とおしの情報共有はできていたが、市民や地域を巻き込んでの支援方法の検討まで至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民や地域の意識啓発、地域づくりを目的とした方法を検討していく。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民や地域の意識啓発、仕組みづくりを十分に行えていないため。</li> </ul>	継続
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆つくしの所在地である西三島自治会との交流を継続する。</li> <li>◆西那須野ライオンズクラブとの交流を継続する。</li> <li>◆農園芸や木工のボランティアを随時募り、開かれた施設運営を心掛け地域との交流を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆つくしのもちつき大会などを通し西三島自治会との交流を図ることができた。</li> <li>◆西那須野ライオンズクラブのイベントへの招待を受けたり、西那須野ふれあいまつりなどを通して交流を深めることができた。</li> <li>◆農園芸品を地域の方に販売することで交流することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆以前からつながりのある自治会やライオンズクラブとの交流を継続できている。また、野菜販売を通しご近所や施設を通りかかった地域の方と交流をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆木工や農園芸のボランティアさんの協力が少なくなってきたので、地域交流と合わせボランティアさんの交流を深められる可能性がある</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆交流の維持が図れた</li> </ul>	継続



所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
心の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公民館まつり等へ参加し、製品の販売を通して施設や障害者への理解と関心を深める。</li> <li>◆小学校行事や地域の交流会に参加し住民との交流を促進する。</li> <li>◆施設外就労により共生社会の理解と啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公民館まつり、共同販売会及び講演会等のイベントに出店し製品の販売を行った。</li> <li>◆「埼玉小学校まつり」、「あつさきふれあい交流会」へ参加し地域住民及び児童、高齢者施設との交流を行った。</li> <li>◆清掃業務及び自動販売機補充作業により施設外就労を実施した。</li> <li>◆施設内でミニコンサートや餅つきを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆製品の購入により施設に関心を持ってもらうことができた。</li> <li>◆ボランティアによる施設での演奏会、餅つきを実施。</li> <li>◆障害者の社会参加を促進できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設の製品への関心は得られてきているが、障害者との交流や実際の関わりについてさらに進めていく必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域行事への参加及びボランティアとの交流をとおし障害者施設のPRができた。</li> </ul>	継続
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設と地域住民との交流の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地元の中学校との交流を実施。（学校祭・施設のクリスマス会等）</li> <li>◆地域のボランティア団体との交流会を実施。（ジギスカン食べ放題・手芸教室・つるし飾り展見学・クリスマス会等）</li> <li>◆「カラフルBOX」（知的障がい者疑似体験啓発隊）発足に、施設職員も加わった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地元の中学生の福祉教育に役立てて頂いている。</li> <li>◆利用者さんの社会参加に繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆今後は、小中学校や各団体に呼び掛「カラフルBOX」と通して啓発活動を強化したい。</li> <li>◆他にも社協が主体となるべき事業があるはず。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆他団体への協力では有るが、新たな事業が展開できた。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 障害者と積極的に交流し相互理解を深めます。
- ▶ 障害者の情報共有の方法を検討します。
- ▶ 障害者が参加しやすい交流会や居場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 障害者への声かけなどの見守りをします。
- ▶ 障害者差別解消法についての理解や関心を深めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域内の障害者施設のイベントに参加し、交流を深めている。また、地域の行事に障害者施設で参加し交流している。</li> <li>◆見守りマップ作成時に障害者の情報を記入し、共有を図っている。</li> <li>◆地域福祉活動補助金を活用し、地域住民（子ども、障害者、高齢者も含む）同士のつながりが取れるよう交流事業を実施している。</li> <li>◆研修会で精神障害者の声を直接聞いて、支援の方法を勉強した。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりやHPを通じて障害に関する情報を得ている。</li> </ul>
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆一人暮らしの知的障害者が、離職して3～4年どこにも属さず時間を持て余していた。</li> <li>◆声かけも何度か行い、つくしに通うように促した。つくしを居場所の一つとして提供することができた。</li> </ul>
心の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小学校行事や地域ふれあい交流会への参加。</li> <li>◆施設内でのミニコンサート開催、ボランティアグループとの交流事業の実施。</li> </ul>
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域自立支援協議会の当事者部会へ参加している。（利用者と職員）</li> <li>◆施設から発信された情報（障害者差別解消法についての各種勉強会や研修会内容）を保護者や地域の方が得ている。</li> <li>◆自宅に届いた通知等について、各家庭から施設に問合せを頂けるので状況把握がしやすく、相手方とのパイプ役になる事も可能。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり
- 施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり
- 今後の取組 (2) 高齢者・子育て世代などへの理解の促進
- ① 行政
- ▶ 子育て世代への理解を深めるため、企業への啓発活動を推進します。
  - ▶ 認知症サポーター養成講座を充実し、認知症に対する理解を促進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	◆子育て世代への理解を深めるための啓発活動の推進。	◆民生委員児童委員（母子父子福祉部会・児童福祉部会）を対象に、研修会を実施した。 ◆市広報で児童虐待、子育てに関する特集記事を掲載した。	◆研修会を行ったことにより、民生委員児童委員の知識や理解を深めることができた。 ◆市広報の記事掲載により市民の関心が高まった。	◆研修会の内容を検討していく。 ◆市広報等を通じて積極的に周知、情報発信を行う。	B	◆企業への啓発活動には至っていないが、子育て支援に対する市民の関心が高まった。	継続
保健福祉部	◆認知症サポーター養成講座の開催	◆認知症サポーター養成講座を開催（18会場）し、665人（延べ5,875人）のサポーターを養成した。	◆認知症サポーターは増加しているが、県内市町と比べ、サポーター数が少ない。	◆小中学校、企業や商工会などに加え、地域住民助け合い事業による地域づくりの一つとして、自治会を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。	B	◆認知症サポーター数は増加しているが、県内市町の中では数が少ないため	拡充

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者や子育て世代の人が参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 地域の中で世代間で交流する場づくりを支援します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりを支援する。</li> <li>◆地域の中で世代間で交流する場づくりを支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議の中で高齢者子ども問題について話し合った。</li> <li>◆住民と共に子どもの居場所について検討した。</li> <li>◆地域福祉活動補助金を活用して世代間交流場ができるよう支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆世代間交流の場が増えるよう支援した。</li> <li>◆世代間で交流することで互いに理解が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆多世代交流の機会が増え、世代間の理解が深まるよう支援する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域活動補助金を活用して世代間交流に取り組む自治会が増えた。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者や子育ての問題について話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 日頃からあいさつを交わしコミュニケーションを図ります。
- ▶ 生きがいサロンや老人クラブなどへの参加を呼びかけます。
- ▶ 世代間で交流する場づくりを検討し、できることから行います。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議に参加し、地域の課題について話し合いを行っている。</li> <li>◆地域で世代間交流事業を実施し、交流の機会を設けている。</li> <li>◆自治会、地域（合同）ごとに生きがいサロン、居場所であるカフェなどを実施している。</li> <li>◆生きがいサロンの活動を周知し、参加を呼びかけている。</li> <li>◆自治公民館で開催している百歳体操の参加を回覧板で呼びかけた。</li> <li>◆子どもの居場所についての検討を重ねている。</li> <li>◆生きがいサロンと老人クラブを上手く調和させ、会員増強に力を入れている。</li> <li>◆普段から挨拶を交わしたり、さりげなく外から見守る等、困ったときに助け合える関係を築いた。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり  
 施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成  
 今後の取組 (1) 地域活動・ボランティア活動への支援の充実  
 ① 行政  
 ▶ 自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実します。  
 ▶ ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実させる。</li> <li>◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。</li> <li>◆地域住民助け合い事業において、重層的な生活支援サービスが地域で提供される体制を整備する。</li> <li>◆地域住民助け合い事業（14公民館）</li> <li>◆地域支え合い推進員の配置（14公民館）</li> <li>◆介護支援ボランティアポイント事業を推進する。</li> <li>◆地域づくり型介護予防サポーター養成事業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者支援制度の推進を図った。</li> <li>◆介護支援ボランティア活動登録者（145人 H31.3.5現在）・地域支え合い推進員を14公立公民館に配置した。</li> <li>◆見守り活動等を71自治会が実施した。</li> <li>◆介護予防サポーター養成（累計69人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、自治会の制度理解が深まり、市との協定率が78%となった。</li> <li>◆（介護支援ボランティアポイント事業）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報で事業のPRをしたことにより、活動登録者が増加した。</li> <li>・見守り活動等取組自治会が増加しているが、取り組みをしていない自治会がある。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、要支援者を支援する地域住民への制度理解を深めていく必要がある。</li> <li>◆（介護支援ボランティアポイント事業）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業のPRの継続、新規者を対象とした相談会の開催等により、更なる活動登録者の増加を目指す。</li> <li>・自治会に直接出向き、見守り活動等の取り組みを働きかけ続ける。</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆避難行動要支援者制度について、いい程度事業の進捗がなされた。</li> <li>◆（介護支援ボランティアポイント）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しづつだが、活動登録者が増え続けているため。</li> </ul> </li> </ul>	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織育成支援補助金の交付</li> <li>◆自主防災組織の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するための補助金を交付した。</li> <li>◆自主防災組織が行う避難訓練等の活動への協力を行った。</li> </ul>	◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。</li> <li>◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。</li> </ul>	B	◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRします。
- ▶ 地域活動やボランティア活動の充実を図ります。
- ▶ ボランティア同士での意見交換の場を設けます。
- ▶ 学生や大人を対象とした福祉教育の充実を図ります。
- ▶ ボランティアセンター運営体制の強化を検討します。
- ▶ ボランティアに関する講座などを開催します。
- ▶ ボランティア活動への経済的な支援を継続します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆社協だより、ホームページを活用し、地域活動の充実を図る。	◆社協だより、ホームページを活用し、地域活動の情報の提供を行った。 ◆見守り活動に取り組む自治会が増えてきた。	◆広報誌、HPを通して地域の活動状況について情報提供をすることができた。 ◆また見守り活動など地域での助け合い活動が広がっている。	◆引き続き、地域活動の情報提供を行う。	B	◆活動状況について情報提供をした。	継続
総務・経理係	◆偶数月（年6回）に社協だよりを発行する。 ◆定期的にHPの更新を行う。	◆社協だよりについては、新たに3つのコーナー（あなたのまちの福祉協力店・地域支え合い推進員は見た・生活困窮係から）を連載として企画した。 ◆HPについては、地域壁新聞コーナー及び福祉協力店の専用サイトを新たに設けた。	◆社協だよりとHPにおいて、地域福祉に関する発信源を増やした。	◆地域福祉に関する情報発信源を増やしたが、内容の充実に努めていくことが必要。	B	◆地域福祉に関する情報発信源を増やした。	継続



所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<p>◆ボランティアセンター運営体制強化として社協本所に新たにボランティアセンターを開設し、黒磯地区、西那須野地区（塩原地区含む）で業務を行う。</p> <p>◆地区別ボランティア交流会を開催する。</p>	<p>◆10月にボランティアセンター本所を開設し、ボランティアセンター黒磯とともに『地域に関わった存在』として活動を開始。</p> <p>◆ボランティアセンターの選任職が3名体制となる（本所2名、黒磯1名）</p> <p>◆コーディネーター3人が全員がコーディネート関係の資格を所有しコーディネート業務を行った。</p> <p>◆ボランティアの交流や情報交換の場として地区別ボランティア交流会を開催。</p>	<p>◆VCが2ヶ所となり、多くの市民やボランティアの窓口となった。</p> <p>◆VC情報誌が充実し、ボランティア活動などのPRが出来、活動者も増えた。</p> <p>◆ボランティア交流会を開催し、ボランティア同士の交流や意見交換が行えた。</p>	<p>◆学校での福祉教育の場が減少したので、新たな学びの場を検討する。</p>	B	<p>◆相談窓口が2ヶ所、コーディネーターが3名となり運営体制を強化できた。</p> <p>◆ボランティア交流会を数回行いボランティアとの交流や意見交換が行えた。</p>	拡充

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自分の関心のあるボランティアに関する講座などに参加するよう努めます。
- ▶ 自分ができることや地域住民ができることについて検討します。
- ▶ 地域の行事や地域活動に関心を持ち、参加するよう努めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議に参加し自分ができることや地域住民ができることについて検討した。</li> <li>◆コミュニティで開催したHUG（避難所運営ゲーム）に参加した。</li> <li>◆先進地の事例について学び、自分の地域でもできそうなことを考えた。</li> <li>◆認知症当事者の会「オレンジドア」にボランティアとして、参加している。</li> <li>◆配食サービスボランティアとして高齢者へお弁当を届け、見守りも行っている。</li> <li>◆公民館まつり等でサークルやボランティアの紹介や発表をし、興味、関心を持ってもらい参加してもらおうようにした。</li> <li>◆ボランティアセンター等が企画する講座の情報を収集し、参加した。</li> <li>◆自治会の話し合いの中で自分たちが出来ることを話し合った。</li> </ul>
総務・経理係	◆社協だよりやHPを通じて地域活動やボランティアに関する情報を発信している。

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成

今後の取組 (2) 地域活動・ボランティアの人材やリーダーの育成

## ① 行政

- ▶ 若者による地域づくりへの参画を推進します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座を充実します。
- ▶ 福祉事業の人材確保のための仕組みづくりを検討します。
- ▶ ボランティアを体験する場を提供する仕組みを検討します。
- ▶ ボランティア情報を提供する仕組みを充実します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆介護予防サポーター養成講座を実施する。 ◆若者による地域づくりへの参画を推進する。 ◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの提案を行う。 ◆ボランティア体験する場を提供する仕組みを検討し、また、ボランティア情報を提供する仕組みを充実させる提案を行う。	◆介護予防サポーター養成講座を実施 ◆介護予防サポーター養成（累計69名）	◆介護予防サポーターが増えることで、住民主体の通いの場の増加に寄与している。	◆介護予防サポーターを増やすことで、住民主体の通いの場の継続及び新規立ち上げを行い、地域全体で介護予防に取り組む地域を目指す。	B	◆介護予防サポーター、住民主体の通いの場が増えているため。	継続
企画部	◆事業内容について検討	◆市民活動センターと協働のまちづくり推進協議会との共催で「若者」も参加しやすい事業を開催した。	◆8/5 なすしおばら市民フェスタ2018 ◆10/27・11/17 市民活動スキルアップ講座 ◆2/9 なすしおばら×協働サミット2018	◆「若者」をターゲットとした事業を企画し、人材やリーダーの育成につなげる。	B	◆若者の参加も意識した事業を行った。	拡充

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	◆市民大学地域づくり学部にて、まちづくりに関心のある市民、これから地域で何らかの活動をしたいと考えている市民、または、すでに団体等で活躍している市民を対象とした講座を実施し、講座修了後に地域で自主的に活動できる人材育成を目指す。	◆生涯学習課で「地域学校協働活動推進員フォローアップ研修」、「地域学校協働活動推進員養成講座」を実施。 ◆公民館や図書館で各種ボランティア（傾聴ボランティア、読み聞かせボランティア等）の養成講座を実施。	◆地域で活躍する、地域学校協働活動推進員の養成及びフォロー、各種ボランティア等の養成を行うことができた。	◆（講座にもよるが）新たな人材発掘の面から、新規の受講者獲得のため、広報活動等の工夫が必要である。	B	◆地域学校協働活動推進員や、各種ボランティアの養成につながったため。	継続
子ども未来部	◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの検討。	◆県で実施している「子どもの居場所担い手育成事業」の研修会に参加した。	◆居場所づくりをしているNPO法人の職員が、積極的に研修に参加していた。実施している事業にどのように活かしていくかが課題である。	◆研修会等に参加し、継続的なスキルアップを図る。 ◆人材確保のための仕組みづくりを検討していく。	B	◆人材確保のための仕組みづくりの検討までは至っていないが、研修会に参加し、スキルアップを図っているため。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 若者による地域づくり座談会の開催に向けた支援の方法を検討します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などを開催します。
- ▶ ボランティアを体験する場の提供を充実させます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆ボランティアを体験する場の提供及びマッチング	◆住民が主催する研修会の支援を行った。 ◆地域の方に配食サービスなどのボランティア活動をしてもらった。 ◆それぞれ地域で活動している方をマッチングした。 ◆認知症当事者の会で地域住民もボランティアとして活躍できるよう支援した。	◆地域の活動を支援し、さらに活動が発展するよう支援した。	◆地域の中に入り、地域福祉活動の担い手になる方を発掘していく。	B	◆マッチングに成功し、住民活動が発展した。	継続
ボランティアセンター	◆・中高校生ボランティアサマースクールの再開	◆中高校生ボランティアサマースクールを新たなプログラムで再開した。 ◆高校生ボランティアグループとんぼの会の新たな活動への支援 ◆ボランティア活動や地域活動に参加しやすい環境を作るための講座を開催した。 ◆学校や地域で福祉体験学習を行い福祉についての学びに協力。 ◆ボランティア活動の情報を多く提供できるよう努めた。 ◆ネットワーク強化により、市内外の活動への情報を提供できた。	◆ボランティアサマースクールを新たなプログラムとして再開させ、今までより内容の濃い講座や育成が行えた。 ◆高校生ボランティアグループとんぼの会の新たな活動の支援を行えた。 ◆学校以外での福祉体験学習の場が増えた。 ◆ボランティア活動を広めるための講座が開催できた。	◆若者の社会貢献活動への推進 ◆ニーズにあった活動に参加できる場所の充実 ◆ニーズに合った講座の開催	B	◆VC運営委員の意見などを取り入れ内容の濃いボランティアサマースクールが開催できた。 ◆VCの運営強化により様々な活動の支援を行えた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 若者による地域づくり座談会へ参加するよう努めます。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などに参加するよう努めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護予防サポーターの研修を受け、地域の百歳体操に取り組んでいる。</li> <li>◆ボランティアセンターが企画する講座に参加し、理解を深めた。</li> <li>◆中高生ボランティアサマースクールの一環で地域のサロンに来てもらい、次世代を担う若者に体験してもらった。</li> </ul>

## 平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 3 地域でのつながりづくり

今後の取組 (1) 地域での交流促進

## ① 行政

- ▶ 地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討します。
- ▶ 学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進します。
- ▶ 公民館を核として、学校との地域の連携・協働を強化する、「地域学校協働推進事業」を進めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部	◆地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討する。 ◆生きがいサロン推進事業の実施 ◆街中サロンの運営支援の今後の在り方の検討 ◆元気アップデイサービス事業の実施 ◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり ◆新しい居場所づくりの検討	◆生きがいサロン運営支援60箇所 ※補助金等の見直しを行った。 ◆街中サロン運営支援1箇所 ※街中サロンに対する運営支援の在り方について検討を行った。 ◆老人クラブ運営支援55箇所 ◆シニアセンター管理運営年間述べ利用者17,485人（H31.1未現在）	◆生きがいサロンの補助金等の見直しを行ったことにより、地域での居場所づくりの推進に期待が持てる。 ◆老人クラブは箇所数等の減少が続いている。 ◆街中サロンひなたぼっこの今後の動向を確認する。	◆生きがいサロンの補助金等の見直し内容を広報等によりPRし、実施団体等の増加に向けて、引き続き事業を推進する。 ◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。 ◆新しい居場所づくりを含め、地域での交流を促進する制度等の検討を行う。	B	◆生きがいサロンや老人クラブの活動を支援することにより、地域での交流促進に一定の効果があったため。	継続
企画部	◆市民活動センターの運営、イベントの実施	◆平成30年4月に市民活動センターを開設し、地域の様々な団体の活動や交流を支援する体制を整えた。	◆平成30年4月に市民活動センターを開設し、市民活動団体の登録を促進、交流を支援する体制を整えた。今後も引き続き支援体制の充実を図る。	◆団体や人のネットワークづくりを促進する。	A	◆センターを設置し、地域活動をサポートする体制を整えた。	継続

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進する。</p> <p>◆モデル地区を3地区設定し、事業内容について協議を行う。</p> <p>◆地域学校協働活動推進員養成講座を実施する。</p>	<p>◆学校だよりを回覧板や学校ホームページで地域へ公開し、学校の情報を発信した。</p> <p>◆ホームページを用いて、運動会などのイベントや日常の様子について、適宜情報を発信した。</p> <p>◆ホームページを学校外からスマートフォンで更新できるようにし、公開までの時間短縮を図った。</p> <p>◆今年度実施3地区（黒磯北中学校区・三島中学校区・塩原小中学校区）で本部事業の開始。</p> <p>◆次年度実施3地区（日新中学校区・東那須野中学校区・西那須野中学校区）で立ち上げ準備に向けての合同会議を実施。</p> <p>◆今年度実施地区の推進員を対象としたフォローアップ研修を実施。</p> <p>◆次年度実施地区から推薦された推進員を対象とした養成講座を実施。</p>	<p>◆学校から地域への情報発信により、情報の共有が図られ、地域交流の一助となっている。</p> <p>◆従来の取組を基盤として、多様な人がかかわった地域と学校が連携した取組が行われている。</p> <p>◆推進員が地域と学校をつなぐ役割を果たしている。</p>	<p>◆現状を維持し、必要に応じて適宜情報を発信する。</p> <p>◆事業の説明機会を設けることで周知と理解を図っていく。</p> <p>◆HPを活用し、市民へ活動状況を周知する。</p>	B	<p>◆学校と地域の情報の共有が行われ、地域交流の一助となっているため。</p> <p>◆本部立ち上げがおおむね計画どおりに進んでいる。</p> <p>◆推進員が役割を自覚し、主体的に活動している。</p>	継続



## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 世代を超えて集まれる場づくりを支援します。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆世代を超えて集まれる場づくりを支援する。</li> <li>◆地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者施設と学校が交流できる機会が持てるよう支援した</li> <li>◆自治会の研修会で精神障害者当事者の声を直接聞く機会を設けられるよう支援した。</li> <li>◆多世代交流事業を実施できるよう地域福祉活動補助金の活用を促した。</li> </ul>	◆地域での多世代交流の場が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の交流が盛んな地域とそうではない地域があるので、地域の格差を埋めていく必要がある。</li> <li>◆交流の機会、場が減少するところが多い中で、継続できるように支援する。</li> </ul>	B	◆地域住民が交流の場を持てるよう支援した。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 気軽に誰でも参加できる行事を企画し、参加を呼びかけます。
- ▶ 世代を超えて集まることができる場づくりを検討し、世代間交流に努めます。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 学校や福祉事業者などとの交流を図るよう努めます。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で祭りなどのイベントを開催し、世代を超えた多くの住民が参加し交流できた。</li> <li>◆自治会の祭りに障害者施設を招待した。</li> <li>◆公民館祭で中学生が企画したコーナーをつくり、多世代の参加を促した。</li> <li>◆障害児・者や介護が必要な方の家族が集う場としてケアラズカフェを開催した。</li> <li>◆オレンジドアを企画し、当事者が主役の居場所をつくった。</li> <li>◆高齢者施設の夏祭りにボランティアとして参加した。</li> </ul>

平成30年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり  
 施策の方向性 3 地域でのつながりづくり  
 今後の取組 (2) 自治会加入率の向上と自治会活動・コミュニティ活動の活性化  
 ① 行政  
 ▶ 自治会加入率向上のためのサポートを充実し、自治会活動の活性化につなげます。  
 ▶ コミュニティ活動の活性化を促す施策の充実に努めます。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会未加入者に対して広報活動を実施し、自治会加入促進を行う。</li> <li>◆自治会との連携を強化して加入促進対策を行う。</li> <li>◆自治会活性化のための支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会加入促進チラシの配布</li> <li>◆ホームページの充実</li> <li>◆自治会活動事例集の作成</li> <li>◆自治会長研修の実施</li> <li>◆自治会活動支援講座「広報誌・チラシ作り講座」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会と連携して、自治会長や自治会への具体的な支援策を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆より効果的な具体的事業を検討・実施し、自治会活動の活性化及び自治会加入率の向上を実現する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会加入率の向上には至っていないが、今後も自治会活動の活性化に向けて地道な取り組みを継続して必要がある。</li> </ul>	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会で、意見交換会、研修会を実施。</li> <li>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会加入団体に対し、コミュニティ活動補助金を交付。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆前年に引き続き、コミュニティ活動の活性化をねらい、下記の事業を行った。</li> <li>◆研修                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換 12/19</li> <li>・視察 2/6</li> </ul> </li> <li>◆コミュニティ活動補助金交付                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費補助金 16団体</li> <li>・自治総合センターコミュニティ助成事業補助金 1団体</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆意見交換会・研修会の開催や、補助金の交付により、コミュニティ活動の活性化が図られた。</li> <li>◆また、各コミュニティとも、概ね共通して活動費の問題、活動の担い手の高齢化や後継者不足の問題、加入率の問題を抱えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆補助金によるバックアップの継続が必要である。</li> <li>◆また、研修等により知見の蓄積を促すことが肝要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コミュニティ活動の活性化により、地域内でのつながりづくりに貢献しているため。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	H30予定	H30実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係 地域福祉係	◆地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法について検討する。	◆コミュニティが地域住民助け合い事業の情報交換の場を持てるよう支援した。 ◆地域ケア会議の中で、障害者や困窮者、児童など幅広いテーマを取り上げ住民の地域課題を検討する場を設けた。 ◆住民が感じる地域の課題について検討会を開催した。 ◆協議体のあり方について関係者で検討を重ねた。 ◆地域の見守り協力員等の会合に出席し、見守りに限らず、地域全体の話し合いも行った。	◆住民が地域の課題に対し「自分たちできそうなこと」について考えられるよう支援した。 ◆地域支援員や地域支援推進員が地域に出向き、地域性を考慮したうえで、地域に合った方法を支援できた。	◆若年層が地域の話し合いの場に参加できるよう支援する。 ◆既存のものを発見、発掘し、相互にうまく活用できるか検討する。	B	◆地域の課題に対し、住民自らが課題解決に向け活動できるよう支援した。 ◆地域支援員や地域支援推進員が地域に出向き、地域性を考慮したうえで、地域に合った方法を支援できた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会未加入者へ積極的に声をかけ、地域のつながりを深めるよう努めます。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりを検討します。

所管	H30実績
地域支援係 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り対象者に自治会未加入者を含めて見守り活動を行い、地域とのつながりを深めた。</li> <li>◆地域住民助け合い事業と避難行動要支援者制度を通して、自治会未加入者である高齢者も対象者を含めて見守り活動を進める。</li> <li>◆見守り活動をきっかけに自治会加入を促した。</li> <li>◆自治会の中に新たに福祉部をつくり福祉活動に力をいれていくことにした。</li> <li>◆育成会と自治会の合同イベントを企画した。</li> <li>◆自治会のチラシを作成し、自治会未加入者が自治会に加入してもらえるような取り組みをした。</li> <li>◆社協の地域福祉活動補助金を活用し、地域のつながりの維持、強化を図った。</li> </ul>